



# 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク

## 2019 年度事業報告

Think globally, act locally and change personally!



### 本部事務所

790-0803 愛媛県松山市東雲町 5-6  
TEL : (089)993-6271  
FAX : (089)993-6227  
E-mail : wakuwaku@egn.or.jp

【EGN】 <https://www.egn.or.jp/>

【武器アート】 <http://mozambique-art.com/>

【四国 EPO】 <https://4epo.jp/>

【四国 ESD センター】 <https://shikoku.esdcenter.jp/>

### 高松事務所 (四国EPO・四国ESDセンター)

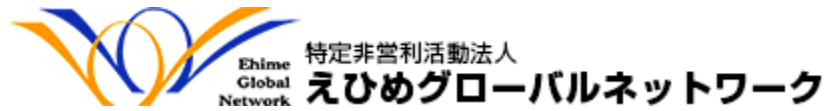
香川県高松市寿町 2 丁目 1-1  
高松第一生命ビル新館 3 階  
TEL: 087-816-2232

### 徳島サテライトデスク (四国EPO)

徳島市西新浜町 2 丁目 3-102  
エコみらいとくしま内  
TEL : 080-4035-4593

### 高知サテライトデスク (四国EPO)

高知市旭町三丁目 115 番地  
こうち男女共同参画センター3F  
TEL : 080-4998-4592



## 【ビジョン】

あらゆる人々が、人として平和な日々をおくることができる持続可能な社会を実現すること

## 【ミッション】

1. 人として対等な立場で支援を必要とする人々の社会的・経済的自立を援助するため市民参加による国際協力活動を実践すること。
2. 国際協力活動を促進し、多文化共生社会を実現するため地球市民教育の普及に取り組むこと。
3. わたしたちのビジョンを追求するため地域・国内・海外の市民や諸団体とのネットワークを構築すること。

**I. 国際協力事業**

1. モザンビーク海外支援事業：モザンビークにおける活動	04
2. モザンビーク海外支援事業：災害支援	12
3. モザンビーク海外支援事業：国内における活動	14
4. フェアトレード事業：フェアトレード普及啓発	20

**II. 環境保全事業**

1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス管理運営等業務	24
2. 地域循環共生圏構築推進四国地域ブロック会議設立支援事業	32
3. 日本NPOセンター委託・Green Gift 地球元気プログラム	34
4. 地球環境基金助成金説明会の開催	35

**III. 教育・ネットワーク事業**

1. 四国地方 ESD 活動支援センター（四国 ESD センター）関係業務	36
2. 外務省NPO相談員業務	42
3. 講師派遣および持続可能な開発のための教育（ESD）普及・促進	44
4. 多文化共生事業	48
5. 西日本豪雨災害・愛媛県での支援活動、三者連携推進業務	50
6. 協働オフィス運営と中間支援機能強化について	52

**IV. 管理運営等**

1. 組織運営	53
2. 2019 年度決算報告	54
3. 監査報告	63



## 総括

2019年度は、世界的に大きな変化に向き合うことが多い1年となった。その中で、大きな関わりのある当団体の自主事業・モザンビーク事業を中心に振り返ってみたい。そして、改めて、市民活動の軸はぶれていないか、どのような方向に向かって活動を展開しているのか、会員の皆様とともに考える機会としたい。

### ■東京オリンピック・パラリンピック 2020 愛媛県がモザンビークのホストタウンに！

5月に新しい元号『令和』を迎え、世界中の人たちと迎える「東京オリンピック・パラリンピック 2020」に向けてさまざまな取り組みが本格化した。その中で、愛媛県・松山市・伊予市・新居浜市の4つの自治体が、モザンビークのホストタウンとなることが決定し、7月に愛媛県庁で調印式が行われた。愛媛とモザンビークの長年のつながりが実を結び、スポーツという新たな分野へと交流の輪を広げることができたことは、とても嬉しい出来事だった。

そこで、モザンビークの学びを12年継続している松山市立新玉小学校では、全校生徒がオリンピック委員会のマネバ会長やセザール事務局長を迎えて交流し、応援のメールを贈った。「フレー、フレー、モザンビーク！」子どもたちが一生懸命応援してくれた声が心に響いた。大学生とともに作成した「モザンビークノート」は、全校生徒に配布した。子どもたちの心に残ることを願う。

7月に4名、10月に8名のコーチを含む選手団がやってきた。研修期間中、松山市、東温市、新居浜市等各地で国境を越え、心と心が触れ合う温かい交流会が開かれた。今まで直接ご縁のなかったスポーツ分野の指導者・支援者の方々とともに、愛媛とモザンビークの友好関係を築くことができたほか、県関係者が2020年2月、モザンビーク訪問の際には当団体も同行し、マネバ会長やセザール事務局長、池田敏雄・在モザンビーク共和国日本大使館特命全権大使と面談するなど、自治体との連携も深めることができた。

### ■モザンビーク応援タオルを作成！ネット販売を開始！

この新たなスポーツ交流を機に、今年度、当団体が新たにチャレンジしたのがフェアトレード商品開発である。2017～2019年度に実施した「JICA・フェアトレード商品開発研修」で出会った、今治市のタオル製造販売会社「IKEUCHI ORGANIC」は、オーガニックでフェアトレードコットンのみを使用し、風の電力100%でタオルをつくっている。ESD拠点登録も行き、SDGs12番「つくる責任、つかう責任」に取り組む誇らしい企業だ。そこで、当団体は、IKEUCHIとともに、モザンビーク応援につながる国旗の刺繍を施したタオルとハンカチに、日本初の「ESD ロゴ」使用許可を得たコラボ商品を完成させた。収益は、2019年3月にモザンビークを襲ったサイクロン・イダイの支援とオリンピック・パラリンピック応援事業で活用することとし、ESD/SDGs普及促進のため「本気SDGs」というマンガのリーフレットも作成した。

2020年1月には「フェアトレードカフェ&雑貨 Waku Waku Café」というネット販売サイトを立ち上げ、自主事業を拡充するための土台を築いた。2009～2013年までフェアトレードと地産地消を進めるカフェ兼店舗として運営した後、5年間の休業期間を経てようやく復活できた。時代のニーズに合う、新たなカタチで販売部門を再スタートすることができたばかりで、運営はまだ未熟だが、今後、充実させ、自主事業の強化を目指したい。

華やかに輝いていた東京オリンピック・パラリンピックは、2019年度末の3月に、新型コロナウイルスのパンデミック（世界的流行）への配慮により、約1年の延期という異例の事態を迎えた。今後も予測不能な変化・影響があると思われるものの、『令は善なり』（中国の国語辞典）、『和を以て貴しとなす』という言葉と合わせた『令和』の時代は幕開けしたばかり。ESDの視点をもって、より良い社会づくりへと向かう選択がきちんとできるよう、じっくり考える時間をいただいた、と捉えることとし、世界最高レベルのIKEUCHI タオル・ハンカチとともに、今後あるべき『変革』にESD仲間と共に立ち向かいたい。

### ■地球環境基金助成・モザンビーク事業の完了と成果

2017年～2019年度まで3年間展開してきた地球環境基金による助成事業は、①武器ゼロからごみゼロの社会づくり、②モリンガの森づくり、③ESD/SDGs ツアーの3本柱で展開した。本事業では、当団体が市民からの寄付やクラウドファンディングにより建てた公民館（2017年度完成）を「ESD拠点化」することを目的とし、現地パートナーであるCCM（キリスト教評議会）と協働で実施した。定期的な勉強会を重ねた結果、シニャングアニーネ村に運営団体を立ち上げることができたのは、大きな成果となった。今後、時間を要する正式な手続きを、粘り強く進めていく所存である。

8月には、「トビタテ留学 JAPAN プログラム」および飛び入りで参加した高校生、メンター役の大学生、10年ぶりに2度目の訪問を果たした高校教員や初参加の高校教員の参加を得ることができた。帰国後、映像資料を作成し、高校生の母校の中学校での報告やモザンビークデーのイベント等で現地の様子を伝える教材としても役立てることができた。

その後、10月～12月にシニャングアニーネ村から初来日した若手リーダーのフェルナンド氏は、西予市のNPOどんぐり王国、松山市内の四国糧油株式会社、NPO法人ぶうしすてむ等、会員・関係者の皆様による多大なるご協力・ご支援を得て、堆肥作り、有機農業、パソコン操作、SDGsスタンプづくり、紙リサイクル等のさまざまな研修を充実させることができた。

### ■「宗像協会」との新たな出会い

宗像協会理事長の田中真奈氏との最初の出会いは、5月のモザンビーク訪問中であった。シニャングアニーネ村



の視察を経て、当団体への助成を即断され、当団体は水を得た魚のごとく「安全な飲料水の提供・いのちの水」「女性のエンパワメントと生活改善」の事業計画を立て、即座に事業をスタートした。シニヤングアニーネ村小学校で雨漏り等に困っていた 2 校舎の修繕、トイレ建設、雨どい・雨水タンクの設置を完了。村長夫人のエレナ氏だけではなく、10 年前に愛媛で研修を受けたクリミルダも運営に関わることができるようになった。

村では、公民館建設後に続くモリンガの森づくり整備、小学校校舎の改修等、地球環境基金と宗像協会の助成を得て両輪で実施した社会環境の改善が、誰の目にも明らかとなった。村人たちの精神的・心理的な変化・転換期をもたらし、戦後の心の復興・尊厳を取り戻すことに大きく貢献した。ボランティアで活動参加する人が増え、「コミュニティファームで農作物を作りたい！」という提案も出てきた。体制整備と共に、村人たちの主体性・自立性が育ってきていることを実感できる 1 年となった。今年度、地球環境基金と宗像協会のダブルサポートにより成し得ることができた大きなステップアップにつながった。心より感謝の意を表したい。

#### ■振り返りとまとめ(教材化に向けて)

ここで、少し、国内の動きを振り返りたい。前年度は「充分な振り返りができなかった」と反省した。そして、2019 年度は、しっかりと振り返りを行いたいと決めていた。そこに、西条市の小学校教員(育休中)が大学院に通い、当団体インターンとなり、新玉小学校で学んだ子どもたちが、その後、どのように ESD の学びを活かしているかをたどる研究を行いたいという申し出が重なった。そのため、振り返りのひとつが「修論」というカタチでまとまった。そして、折しも、新玉小学校をユネスコスクールに申請した担当の先生が愛媛大学教育学部の教員となり、「ESD ラボ」を立ち上げ、2020 年 1 月に「日本 ESD 学会・第 1 回四国地方研究会」を主催、その分科会で発表するという機会につなげていくことができた。ESD の学びの本質は何かを振り返る好機となり、その学びを活かしている高校生や社会人(新玉小卒業生)に再会できた喜びは大きい。

もうひとつの振り返りとして、全国 ESD センター受託団体である東京の NPO「持続可能な開発のための教育推進協議会(ESD-J)」との協働で評価事業を実施することができた。その一部には、松山市国際交流協会が実施する「ESD 派遣事業(10 年)」の振り返りも含む。松山市が目指す「SDGs 推進モデル都市」の一環としても連携・協働しながら取り組んだ。この振り返りは、2020 年度に続く。ぜひ、教材化につないでいきたい。

#### ■地域循環共生圏と ESD/SDGs の取り組み

今年度も、昨年度に引き続き、四国各地で環境省「四国環境パートナーシップオフィス(四国 EPO)」、環境省・文部科学省が開設した四国地方 ESD 活動支援センター(四国 ESD センター)」とともに、さまざまな事業を展開した。大きな

柱として、「SDGs のローカリゼーション」と「地域循環共生圏づくり」のコンセプトを意識しながら、四国各地域の自治体・企業・NPO/NGO・中間支援組織等、多様な主体と連携し、それぞれ地域の特徴を活かした事業を推進することができた。同時に、外務省 NGO 相談員として、JICA や国際協力 NGO との連携も視野に入れ、常にグローバルに取り組むことで、当団体ならではの展開ができたと思われる。

また、2019 年度で特徴的な新規連携先としては、「愛媛県中小企業家同友会」に入会したこと、地元企業と連携し地域づくりに係る新たなネットワークづくりの一步を踏み出したことが挙げられる。ESD は、環境・社会・経済のバランスを必要とする学びと実践であり、これまで踏み込めていなかった経済界とのつながりを意識した展開となった。全容については割愛するが、ぜひ、報告書本文をご一読頂きたい。

#### ■事務局運営に四苦八苦

外に向かって積極的に事業展開していったことにより内部人材の能力向上が見られた一方で、実は、足元の事務局体制、日々の業務・土台を支える事務局運営には大変厳しいものがあつた。

2018 年度決算時より、事務局人材の確保、定着が難しくなった上に、2019 年 10 月以降の消費税率が 8%から 10%への変更、それに伴う契約変更、さらに、2020 年 3 月の新型コロナウイルス感染拡大防止に関わるイベント・会議の中止による減額、それに伴い、年度末に再度の契約変更が生じた。年度末にようやく確保できた人材も、介護等さまざまな事情により、事務局立て直しとして立ち上げた「会計チーム」はわずか数週間で崩れ、事務局運営は四苦八苦の 1 年となった。その中でも、特に、前年度(2018 年度)の修正決算を行わなくてはならない状況となったことについて、会員・支援者の皆様に対して、ここで深くお詫び申し上げたい。

2019 年度は、15 年間、活動をともにした「四国 NGO ネットワーク」を当団体のネットワーク事業として機能的に統合するという役割を果たした。そして、今回のことを踏まえ、2020 年度もさらに事務の簡素化を図る努力を重ねていくこととしたい。

#### ■受賞に感謝!

2019 年度、思いもかけず、JICA 理事長賞と松山市市政 130 周年功労賞を拝受した。個人名で頂いたものの、これらの受賞は、えひめグローバルネットワークのさまざまな活動に関わる会員・寄付者をはじめとする支援者・関係者の皆様からの支えなしには起こりえなかったことだと思う。代表して受賞させて頂いたが、この喜びは皆様とともに分かち合いたい。改めて、この市民活動団体を長年にわたり育てて下さり、日々、支えて下さり、応援して下さいの皆様から心からの感謝を捧げ、引き続き、市民主体の社会づくりに貢献していきたいと願う。

代表理事 竹内よし子

## I. 国際協力事業

### 1. モザンビーク海外支援事業：モザンビークにおける活動

#### (1) 地球環境基金助成事業

##### 「モザンビークにおけるユース中心の SDGs 達成に向けた国際ナショナル ESD」

本事業は、2017 年度より独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を得て、モザンビーク共和国の首都マプトから約 100 キロ北西にあるシヤングァニーネ村において、モザンビークキリスト教評議会 (CCM: Christian Council of Mozambique、以下 CCM)「銃を鋤へ」平和構築プロジェクトとの連携により実施してきたものである。

シヤングァニーネ村は、電気・水・道路などのインフラが整っていない地域であり、当団体は、CCM とともに 2006 年から武器ゼロキャンペーンとして不発弾処理や武器回収など、平和構築支援活動を行い、教育支援・国際交流を行ってきた経緯を持つ。2017 年末には市民からの寄付等により公民館を建設し、村人たちとの信頼関係を築いてきた。

本事業では、この公民館を「ESD(持続可能な開発のための教育)拠点」として活用しつつ、SDGs 達成に向かう学びと実践の場づくりと人材育成に注力したものである。具体的な活動は、以下、ア)「武器ゼロ」から「ごみゼロ」社会づくりへ、イ) コミュニティフォレストづくり、ウ) ユース交流「ESD/SDGs ツアー」の 3 本柱であり、2019 年度は 3 年目で最終年となった一方で、宗像協会の助成事業が始まったこともあり、相乗効果を生み出す充実した 1 年となった。

#### ① 「武器ゼロ」から「ごみゼロ」社会づくりへ

- 事業開始当初は、村のクリニックにごみ箱がひとつあるだけで、プラスチックや紙ごみ、空き缶、ペットボトル等があちこちにごみが散乱していた。そこで、生態系への悪影響など環境問題を引き起こさない持続可能な地域づくりを目指した「ESD 拠点づくり」として公民館を活用し、地域の循環型社会構築につなげるための 4R(Remake, Reform, Reuse, Recycle)の活動を展開した。
- 具体的には、公民館でごみの分別と資源化に関する勉強会を開催し、右側の写真のように、プラスチックをぎゅーとペットボトルに詰めた「エコボトル」づくりを行い、今後、建設資材として活用する準備を行ったり、瓶のフタを活用した鍋敷きを作るなど、リメイク商品開発を行った。
- ほぼ毎月 1 回、セミナーを公民館で開催し、CCM のコーディネーターであるジッタ氏より、ポルトガル語とシヤングァーナ語(ローカル言語)で村人たちに継続的な学びの場を提供した。結果、村人たちによる自主運営組織「ティセラーニ」が立ち上がり、自ら勉強会・意見交換会が開催されるようになった。
- シヤングァニーネ村の公的な施設が集まっている地域(公民館、コミュニティ・モリンガフォレスト、小学校、サッカーフィールド、クリニック)において、ごみ箱を設置し、ごみが落ちていない環境を整えることができた。同時に、教員の協力を得て、子どもたちの環境教育につなげていくこともできた。
- 2018 年度に実施した CCM のコーディネーター研修に続くものとして、2019 年度は、10 月～12 月の約 3 か月、若手リーダーのフェルナンド氏を愛媛に招き、刈草などを集め、牛糞とともに堆肥づくりを行うなどの研修を行うことができた。(研修内容は 16 頁参照。)





## ② コミュニティフォレスト整備

- 子どもたちの栄養改善のため、また、村人たちの自主的かつ持続的な事業展開と運営につなげるため、栄養価が高く、フェアトレード商品、保存食などの商材としての可能性が高い「モリンガ」の育苗・植樹を行うコミュニティフォレスト整備に取り組んだ。（注：日本の森林のようなものではなく、平地・砂地で植樹を行うため、畑のようなイメージ。広さは50M×50M。）
- これまで、種をポットに植えて、発芽して30cmくらいの高さに育ったものをモリンガフォレストに植え替える作業を繰り返してきたが、2019年5月、昨年度までに植栽したモリンガの葉がほとんど枯れてしまうトラブルが起きた。そのため、専門家のジュディッティ氏を招いて指導を受け、カシューナッツ等、もともと同じ敷地内に育っていた果樹をすべて伐採・除去した。一時改善したものの、その後、再度、2020年2月に原因不明（害虫による被害と推測）のトラブルで葉が落ちてしまった。そのため、本来、モリンガは2～3年で成木となり、2019年度内には葉を収穫し商品化することを予定していたが、できなかった。
- 他方、順調に成長させることが難しい現状をリーダー含め、関係者が認識し、この村の土地・自然環境にあった生育方法を学び、このようなトラブルに対応する過程の中で、男女各2名、計4名がリーダー的存在として育ち、土地の管理や整備を行えるようになっていった点では、人材育成の機会を得たといえる。
- また、2019年度中は、ジュディッティ氏のアドバイスにより、1m以上成長したモリンガの幹を切り、挿し木で増やす方法を取り入れたことにより、これまで成長したモリンガの幹を活用し、効率良くモリンガの葉の収穫を増やす技術を学び、実践できた。
- ジュディッティ氏は、商品化したものを村人たちに見せること、販売できるということをしっかり伝えることで、村人たちのモチベーションを上げていく必要があると指摘した。村のコミュニティフォレストのモリンガは十分に育たなかったため収穫できなかったが、村人たちは、ジュディッティ氏が持参したモリンガの葉を粉にしていくプロセスを経験することで、「商品化」のイメージを共有することができた。同時に、エプロン、ヘアキャップ、マスクの着用と手洗い指導を行うことができた。
- コミュニティフォレストの管理・運営に自主的に参加する村人も現われるなど変化も起きた。自宅や畑でモリンガを植える村人が増え、地域全体でモリンガをコミュニティビジネス化する機運を高めることができた。

（注：右の写真は、2020年5月にシニャングァニーネ村から届いたもので、ようやく、モリンガの葉を収穫し、乾燥させている様子である。）





### ③ ユース交流「ESD/SDGs ツアー」

- 2019年8月に実施した「ESD/SDGs ツアー」には、「トビタテ留学 JAPAN」プログラムとして参加した高校生、このプログラムに「飛び入り参加」した高校生、今回3度目のモザンビーク訪問で高校生のメンター役で参加した大学生、アフリカを初めて訪問する高校教員、10年ぶりに2度目のモザンビーク訪問を実現させた高校教員の計5名が参加した。
- 首都マプトに8泊、シニャングアニーネ村に6泊し、都市部と農村部の暮らしを比較しながら「開発」と「格差」に関するさまざまな課題、それぞれの暮らしの良いところや改善点などに目を向け、気づいたこと、感じたこと、考えたことについて意見交換しながら、参加者同士で学び合いを深めていった。このプロセスを通じて、環境に配慮した平和で持続可能な地域社会づくりや、自分との関わりをSDGsとともに考えていく、というツアー実施の目的を果たすことができた。
- マプト市内では、モザンビークオリンピック委員会、自然史博物館、マプト駅舎、クラフトマーケットなどを訪問し、モザンビークの文化や歴史を学んだ。また、日本大使館で池田敏雄特命全権大使との面談、日本のODA事業で建てたフィッシュマーケットの訪問などにより、日本とモザンビークの友好関係も学ぶことができた。さらに、ジョシナ・マシエル高校では、高校生が愛媛の特産品である「水引」をモザンビークの生徒130名に紹介して創作活動を行ったり、習字やスポーツなどの文化交流、愛媛大学附属高校とのスカイプ交流を通じて友好関係を築くことができた。
- シニャングアニーネ村では、改良かまどづくり、砂運び体験、モリンガの生育確認、子どもたちとの交流（水引・折り紙・フーラフープ・縄跳び・袋跳び・バレーボール）や身体測定・視力検査を行ったり、星の観察、カプラナ布（モザンビークの伝統的な巻きスカート布）を試着して教会を訪問したり、村人たちと歌の交流などを行った。5リットルのペットボトルとバケツ1杯のお湯でシャワーを浴びたり、炭火の火を起こして食事の用意をするなどの生活体験は不自由だが楽しんでいた。
- 村のすぐ近くまで広がる大規模農場開発では、電気も水もあるが、道を1本の隔てた村までは届いていない現実がある。その中で、内戦による村の衰退の歴史から立ち上がり、より良い生活をするために日々助け合って暮らしている村人たちのたくましさからも学びを深める機会となった。
- ツアー実施後は、ひとり1人の動画作成やパワーポイント資料等を作成し、振り返りと共有のため、「モザンビークデー&帰国報告会」等で発表した。高校生による体験報告の一部抜粋を次項にて紹介する。



三宅川ひなた・愛媛大学附属高等学校 3 年生

教育はただ勉強を教えることではないと思う。私が考える教育は、凄いな…面白いな…楽しいな…不思議だな…など、人の心を動かすことだ。私のこの留学の目標は、モザンビークの子供たちに感動を与えること。私は水引を通して、ジョシナマシエル高校の生徒と村の子供たちの心を掴み、感動をあたえることができたと思う。言語が通じなくても、一緒にすればすぐに覚えてくれる。次はどうするの？とか、ここ教えて！と興味を示してくれたことが本当に嬉しかった。私にとって、水引は子供たちとの共通言語だった。



しかし、この留学は辛かったこともあった。ジョシナマシエル高校の生徒とスポーツ交流をした時に、親しく話しかけてくれる女の子がいた。その女の子は英語も上手く、活発な子だった。しかし、私は話しかけてくれる内容が聞き取れず、会話が成立しなかった。とても悔しかった。やはり、世界の共通言語である英語をもっと勉強しないと、と思うようになった。もう 1 つ辛かった場面は、村で生きたニワトリの首を切ったときだ。私はそのニワトリをトニーと名付けた。トニーは、殺されることを分かっていたのだろう。羽をバタバタしながら泣き叫んでいた。私は始め、ニワトリを自分の手で殺せる自信があった。しかし、右手に果物ナイフを持ち、左手でトニーの首を絞めた瞬間、左手にドクドクとトニーの鼓動が伝わってきた。私の足はガクガクと震え、ゴメンねと何度も呟きながらトニーの首を恐る恐る切り始めた。首を切るだけで 10 分程かかった。切り終わった後も足の震えは止まらなかった。人間は生き物の命を奪い、食料にしなければ生きていけない。だからこそ、いただく命への感謝の気持ちを忘れてはいけないということを身にしみて感じた。

私はこの留学で SDGs を感じる場面が多かったように思う。その中で特に感じた SDGs の項目は、「6. きれいな水と衛生」と「10. 人や国の不平等をなくそう(格差)」の 2 つだ。村で食器洗いをする時、タンクの水は川の水だったから、1 回ずつ衛生的な水(ミネラルウォーター)で洗わなければならなかった。1 歩間違えて川の水を飲んでしまったら、お腹を壊しただろう。衛生的な水を使うことは大切だと思った。また、マプトで高級な服を着てレストランに来ている人もいれば、道路の真ん中で必死に物を売っている人や、道端で毛布にくるまりながら寝ている人に遭遇した。モザンビークの中で大きな格差を見た気がする。

これらの濃厚な 2 週間を通して、視野が広がったと感じる。心の扉が全開に開いて、新しいことを吸収しようとする力がついた。たくさんの人や様々な動植物と出会う中で、今まで感じたことがない新しい感情がじわじわと体から湧き出ている感じがした。日本に足りない豊かさがモザンビークにはあり、モザンビークに足りない、物事に真剣に向き合う、ということが日本ではできない。この留学でモザンビークの良さを知ることができたし、日本を外から見て、日本の良さを更に知ることができた。



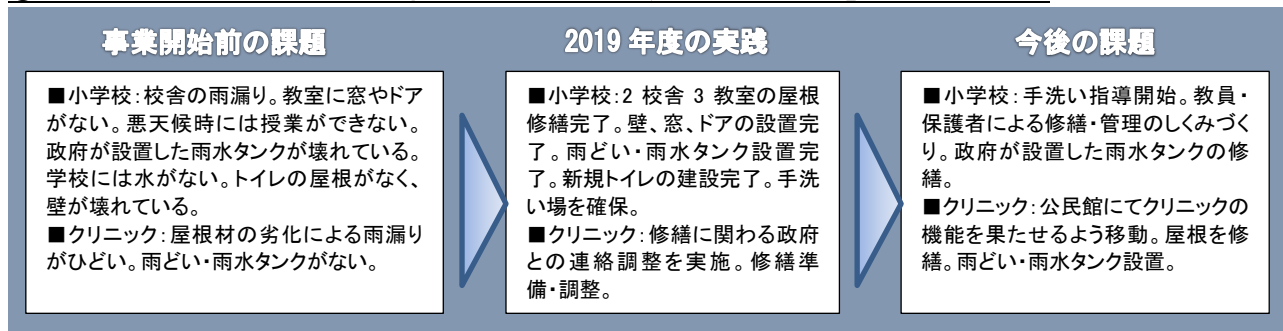
それぞれの国にいい所が沢山あると分かった。お互いの国が手と手を取り合って支え合うことが必要なのではないか。私はこのモザンビークにきて、多くのことを学んだ。私はモザンビークのラフな感じが好きになった。私はまだ日本とモザンビークの 2 カ国しか見ていない。この留学をきっかけに、もっといろんな国を知りたいと思うようになった。いろんな人や動物、植物と関わることで、様々なことを無限大に学ぶことができると思った。この留学は一生の宝物であり、これから私が歩む人生の 1 つの材料になるだろう。(中略) 私は地球全体がひとつであるという感覚を持ち続け、共に歩み、共に助け合い、共に笑う世界にしていきたい。そのために、まずは自分にできることをして、発信し続けたい。



### (3) 宗像協会助成事業

本事業は、2019年5月、宗像協会の田中真奈理事長のモザンビーク渡航、シニャングアニーネ村訪問を機に、下記2件の事業助成が決定し、即時開始となった事業である。学校の修繕や水へのアクセスの改善など、現地の人々のニーズに応えたインフラ整備（ハード面の支援）と地球環境基金の助成事業（ソフト面の支援事業）との相乗効果をもたらす活動展開ができた。

#### ①いのちの水プロジェクト(上位目標:安全な水の確保、村の「水道組合」の仕組みづくり)



シニャングアニーネ村は、悪路によりアクセスが悪く、外部支援が入りにくい地域であり、GCMの要請を受け2006年からこの地域の支援に携わるようになった経緯を持つ。

宗像協会の助成を得て、5月から8月までの乾季の間に1校舎2教室の修繕、新規トイレの建設を終え、雨水タンクを設置することができた。その後、9月から2月まで、雨季を挟みながらも1校舎1教室の修繕を完了させることができ、小学校に通う児童約100名、教員・校長3名が学ぶための環境は大きく改善された。学校の校舎の改修期間中は、公民館を活用したこともあり、子どもたちや保護者が公民館で行われているいろいろな活動に触れることができる機会の創出にもつながった。

また、公民館で毎月開催しているセミナーにおいて「学校がとても立派になった」「学校が美しく、嬉しくて幸せだ」「シニャングアニーネ村に誇りが持てるようになった」など、村人からのフィードバックもあり、今度は、「スクールファームやコミュニティファームに取り組もう」「自分たちも村を良くする開発をしよう」、といった前向きな提案が関係者自身の提案として出されるようになった。学校修繕という目に見える改善が、公民館建設後に続いたことにより、コミュニティ全体のモチベーションを高めることにつながった。村人たちの学ぶことへの関心が高まったこと、教育の重要性に気付くことができたことは大きな成果となった。公民館をESD拠点化するという目的をほぼ達成したと考えられる。

今回、建設・修繕に関わった技術者と今後も定期的に屋根の点検を行い、維持管理に努めることなど、具体的なフォローアップの話合いもできた。

次年度実施予定のクリニックの屋根の修繕と雨水タンクの設置については、2019年度中に関係者(モアンバ郡政府・病院)との調整を行うことができ、改修期間中は公民館をクリニックとして活用することとした。

2020年2月の訪問時には気候変動の影響もあり、乗り合いバスが運行できないほどの大雨にあり、村全体の会合は実現できなかったが、公民館・学校・クリニックにおいて、新型コロナウイルス感染拡大防止のための手洗い場の確保、手洗い指導、村全体の衛生管理への啓発に着手することができた。



▶修繕完了したシニャングアニーネ小学校校舎



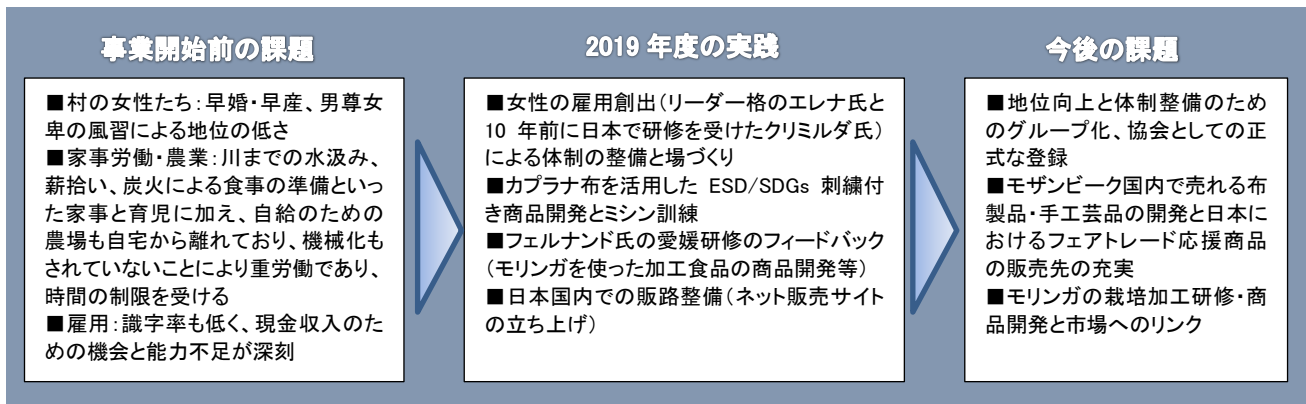
▶児童と先生たち



▶クリニックの状況



## ②シニャングアニーネ村女性の収入向上プロジェクト(上位目標:雇用の創出、経済循環づくり)



本事業では、最初に女性の雇用創出拠点として、シニャングアニーネ村の公民館の1室に、ミシン2台、作業机2台、長椅子2脚、裁縫道具や資材(カプラナ布・刺繍糸・マネキン等)、教材(刺繍手本、小物づくり)等、もともと支援物資として現地に届けていたものを整理して配備した。

次に、村の女性リーダーであるエレナ氏を雇用し、その後、エレナ氏の了解を得てクリミルダ氏も雇用し、資材や道具の管理ができる体制整備を行った。クリミルダ氏は、2009年に3か月間、愛媛で研修を受けたが、帰国後、村の若手リーダーとして受け入れてもらえず、縫製・刺繍の作業にも関わることができなかった経緯を持つが、今回、エレナ氏がパートナーとしてクリミルダ氏を推薦したことで、初めて村の若手リーダーとして活動できることとなった。10年の歳月がかかったものの、クリミルダ氏の正式な雇用をもって、村全体の女性の地位向上の一步を踏み出すことができたと言える。

商品の開発においては、ESDの刺繍をカプラナ布一面に施したものの、デザイン性のあるバッグの試作、編み物等を行った。また、学校修繕を行っている間、村の子どもたちが公民館を活用しており、エレナ氏とクリミルダ氏により、定期的にミシンの使い方や、針と糸の使い方と刺繍を教えるなど、子どもたちの将来の仕事の選択肢を広げることもつながった。

他方、いつ、誰が参加し、どのようなことを教えたのかといった記録はきちんとできておらず、識字率の低さが起因する課題は残った。当面、この課題解決のための方法・仕組みづくりとして、女性グループに携帯1台を持たせ、写真で記録を残すこととし、本部へ連絡・報告・共有する方法で改善することとした。

縫製・刺繍商品については、主に地域や国内で販売できる商品開発を進めているが、一部は日本でフェアトレード応援商品として販売すること、普及・啓発用の教材として販売することなどを視野に入れ、「waku-waku café ネットショップ」を立ち上げ、作品のストーリーを可視化し、購入しやすい仕組みのための準備を整えた。



▶ESD 刺繍を施した布



▶試験栽培したモリンガ



▶モリンガ食品加工の試作

## (4) 銃を鋤へプロジェクト(TAE)における CCM と EGN との協力体制に関する年次報告

ボアベンチュラ・ジッタ(Boaventura Zita) キリスト教評議会 (CCM/TAE) コーディネーター  
(翻訳協力: 乾慈深・愛媛大学農学部 4 回生)

### ① 紹介と背景

えひめグローバルネットワーク(EGN)は、「Think Globally! Act Locally! Change Personality!」をモットーに平和構築の分野で活動している。2000 年からモザンビークキリスト教評議会 (CCM) の平和構築プログラム「銃を鋤へ」(TAE)に協力している。TAE は、「平和と和解のための心と身体の武装解除」というモットーにより導かれている。両組織は、内戦後に平和構築の和解プログラムで協力し、武器を収集して破壊し、武器を手放した人たちに自転車やマシンなどを提供してきた。そして、地域社会の問題解決に向けて協力している。また、コミュニティ開発、人権問題、職業訓練や技術伝承、リサイクル、そして日本とモザンビークの交流などの分野で協働している。主な活動場所は、マプト州モアンバ郡シニャングアニーネ村である。



### ② 協働の指針となる原則と精神

両組織は、平和と和解の普遍性の原則に基づき、世界の人々を導くために、優れた行動、透明性、誠実さを共有し、人権と生命の神聖さを尊重する。

### ③ シニャングアニーネ村の社会的および政治的背景

モアンバ郡はモザンビークの南部に位置し、南アフリカやスワジランドとの国境に近い。インコマティ川がこの地区を横切っているが、現在は干ばつに襲われており、水が非常に少ない状況となっている。村人の主な生業は農業と畜産だ。最近、サウキビ会社が開業し、地域の農地を一部利用してサウキビを栽培している。CSR の一環として、地域の農民へ多くのことが約束されたが、実際に地域のための事業などは行われていない。モザンビークでは失業率が非常に高く、モアンバ郡も例外ではない。そのため、多くの若者は仕事を探すためにマプトに出ていく。しかし、そこでも仕事の機会がほぼなく、男性の多くは南アフリカの鉱山や農場で働いている。今日、女性も南アフリカに移住する傾向があり、違法な越境支援ビジネスは、男性が不在の中、家族の稼ぎになっている。



▶村での研修の様子

### ④ 公民館での勉強会

公民館で毎月、市民教育を行った。参加者は毎回 15~25 名で、言語は現地語のシャンガーナ語とポルトガル語を使用した。勉強会の後は、参加した村人たちがそれぞれの家族や友人に学んだことを共有することとなっている。



## ⑤ 成果と影響

マレンガーネ・シニャングアニーネ地区は、16年間の内戦中に多くの苦悩を経験した地域である。特にシニャングアニーネ村は、当時の反乱運動の本部があったため軍事活動が激しい場所で、住民がマプト、南アフリカ、またはスワジランドに逃げた。彼らのほとんどは希望を失ったが、今では徐々に現実と向き合い始めている。これは、村長のペサネ氏とその妻のヘレナ氏の言葉からも伺える。「16年間の内戦で人々は多くの被害を受けた。私たちのほとんどは人間性を奪われた。私たちは硬い心を持っている。」硬い心とは、地元の言語であるシニャングアニーネ語における非常に強い言葉で、未だに PTSD に苦しんでいる人々がいることがわかる。「人々は乞食として支援されることが当たり前になった。彼らが他人を信頼するには長い時間がかかる。」



▶モリンガの種の植え付け

えひめグローバルネットワーク関係者の定期的な訪問は、非常に大切である。訪問により、日本の経験を共有したり、公民館や個々の家庭で、女性や少女向けの職業研修が役立っている。参加者は自分で生活状況を向上するために何が必要か、どのような変化があったのかを確認し、勉強会で参加意識を向上した。さらに、さまざまな分野で活躍する日本人の訪問によって強化されていく。こうした活動の成果の一つが、コミュニティのメンバーが初めて TIYISELANI(「ティセラーニ」という公民館運営団体)の役員を指名したことに現れている。これまでは、誰もがリーダーというポジションを、陰口や嫌がらせを受けるといった可能性を理由に嫌っていた。悪い文化的信念やステレオタイプを取り除くには、長い時間がかかるが、村人が一つの基準を共有し、一緒に働き、共に経験をすることで、彼らの間に少しずつ変化が起こり、新しい世界観が育まれていった。



▶モリンガ加工研修の様子

他の例として、シニャングアニーネの人々のほとんどは誇りや尊厳を持つようになったことも挙げられる。何故なら、他にない開発と発展がこの村に起きたからである。最初、人々は他の人々と調和する方法を学んだ。そして、インフラ整備が進むにつれて実際に使える技術を学び始めた。えひめグローバルネットワークと CCM が活動を開始した 2000 年当時は、小学生は木の下で勉強していた。「銃を鋤へ」プロジェクトチーム(TAE)は、16年間の内戦中に空軍によって投下された爆弾や銃などの武器数百個を回収した。TAE は武器を差し出した人たちに交換物資を与えたが、シニャングアニーネの人々は、TAE に教室を建てたいと言った。その後、CCM が資材提供して村人たちが建てた校舎の老朽化が進み、EGN の協力を得て今年度は、2校舎 3教室の改修が行われた。小学校が建設されている間、子どもたちは公民館を学校として使用し、学校とコミュニティの関係が深まった。(中略)

もう一つの良い結果は、モリンガの栽培だ。村人たちはモリンガ栽培し活用する方法を学んでいる。公民館の近くにモリンガを育てるための畑があり、一部のメンバーは自身の畑でもモリンガを栽培している。また、定期的にモリンガの専門家が訪れ、栽培、維持、調理、粉碎して利用する方法などを教えた。栄養失調のような重要な健康問題を解決するのにも役立ち、環境保全について説明するのにも役立つ。市場で販売できるため、家族の収入向上に貢献できる。



### 3. モザンビーク海外支援事業：国内における活動

#### (1) モザンビークサイクロン災害支援

##### ① モザンビークサイクロン災害支援

- モザンビークを含むアフリカ南部で 2019 年 3 月 14 日にサイクロン「アイダイ(Idai)」が発生し、被災者 200 万人、死者数 1,000 人を超える規模の甚大な被害が発生した。当団体は、両国大使館、JICA 青年海外協力隊 OV、JPF(ジャパン・プラットフォーム)、認定 NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)、モザンビーク留学生、大学関係者等との連絡調整を行い、市民の皆様、各種学校、行政、企業、メディア等と連携しながら、支援に向けての活動を行った。
- 留学生やわくわくユース、新居浜グローバルネットワーク等と連携し、広く募金や寄付の呼びかけを行った。いよてつ高島屋市駅前等では 5~6 月にかけて複数回にわたり、「モザンビーク被害支援募金」を実施した。当日は、愛媛大学生や高校生、MIC チャレンジプロジェクトの子どもたち、松市立新玉小学校の生徒が協力してくれた。
- 支援募金の募集とともに、5 月現地渡航の前に支援物資の準備を行った。宇和島からの衣類支援も含め、衣類は現地で迅速に個別配布できるよう、留学生を含む多くのボランティアが荷造りに協力してくれた。



▶いよてつ高島屋市駅前募金活動



▶ボランティアによる衣類、支援物資送付準備

##### ② モザンビークサイクロン被災地調査・コーディネート

- JICA 国際緊急援助隊・医療チーム活動終了後、現地での緊急支援を検討していた認定 NPO 法人ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)、JPF(ジャパン・プラットフォーム)の現地での被災地支援開始に向けて、ベイラでの被災地調査や関係者ヒアリング、日本大使館訪問、現地 NGO 等との連絡調整、コーディネートを行った(4 月 28 日~5 月 8 日の日程で竹内、常川 2 名が渡航)。
- 多くのみなさんの協力と支援の元、集まった資金を活用し、①支援物資調達・輸送(衣類、ポット苗などの農業資材)、②現地で種や農業資材調達、③現地での聞き取り調査、④モザンビーク国内で壊滅的な被害を受けたベイラで緊急支援活動を行う現地パートナー団体 CCM(キリスト教評議会)と日本人が運営する現地の学校太陽の学校の生徒とその家族へ支援物資を日本からのメッセージとともに寄贈した。



▶太陽の学校、宝山氏への聞き取り調査



寄贈用の種、肥料、ポット等



太陽の学校での寄贈の様子

### ③ モザンビーク災害支援報告会

- 開催日: 2019年5月25日(土) 13:30~16:00
- 場所: 愛媛県松山市男女共同参画推進センター「コムズ」
- 主催: (特活)えひめグローバルネットワーク
- 右記チラシのとおり帰国報告会を実施した。報告会に先立ち、代表の竹内より、これまでのモザンビーク支援の概要と今回の災害支援を実施するにあつての経緯の説明があった。
- その後、富澤氏からは、国内外での災害時緊急支援の状況やどのような考え方で支援を行っているのか等の説明があり、NGOで働くこととはどのような意味があるのか、また、写真等を交えて、実際に緊急支援現場における、海外NGO等との連絡調整や会議の様子を生徒にも分かりやすい内容で報告をいただいた。
- 続いて、角免氏より、現地の被災状況や支援物資の調達の配布の様子など、写真や映像を用いて報告をいただいた。
- 一連の報告の後、会場の参加者を交えての質疑応答、ディスカッションを行った。当日は、高校生から大人まで愛媛県内外より、関係者やモザンビークに関わりや関心を持つ方、緊急災害支援の状況を知りたい方など、約30名が参加した。共同通信からモザンビークでの被害の様子が、地元新聞でも紹介されたこともあり、参加者は、現地の状況や日本からの緊急支援がどのように実施されたか等について、熱心に話を聞き、質問やメモをとるなど、参加者の関心の高さを実感する会となった。

主催: (特活)えひめグローバルネットワーク (EGN)  
 協力: (特活)ジャパン・プラットフォーム(JPF)  
 (特活)ピースウィンズジャパン(PWJ)

**モザンビーク・サイクロン支援  
 帰国報告会**

3月14日、サイクロンが直撃したモザンビーク共和国。土砂崩れや洪水に襲われた被災地では今も支援活動が続いています。今回は現場での活動報告に加え、私たちにできることは何かを考える機会として報告会を開催します。国内外を問わず、災害支援の重要性を感じる皆さんさまのご参加をお待ちしております。  
 【参加費無料】

2019  
**5月25日(土)**  
 13:30~15:30  
 (受付 13:00~)  
 松山市男女共同参画推進センター コムズ  
 5F 会議室 5  
 (愛媛県松山市三番町6丁目4番地)

プログラム-----  
 ●「愛媛とモザンビークのつながりとサイクロン支援について」 竹内 よし子・EGN 代表  
 ●「JPFの仕組みと役割、災害支援におけるコーディネーションの必要性について」 富澤 聖子・JPF 緊急対応部プログラムコーディネーター  
 ●「サイクロン支援活動報告と今後の連携について」 角免 昌俊・PWJ 経営推進グループ部長  
 ●質疑応答・パネルディスカッション  
 ●チャイラー交流タイム(15:30~16:00 自由参加)

お問合せ-----  
 特定非営利活動法人  
 えひめグローバルネットワーク  
 〒790-0803 愛媛県松山市東雲町5-6  
 Tel/Fax: 089-993-6271  
 E-mail: wakuwaku@egn.or.jp

広報チラシ



会場の様子



### 3. モザンビーク海外支援事業：国内における活動

#### (1) モザンビークオリンピック・パラリンピック選手団応援事業

愛媛県、松山市、新居浜市および伊予市は、2020年開催予定だった「東京オリンピック・パラリンピック2020」のモザンビーク共和国のホストタウンとなり、2019年7月には、愛媛県が「モザンビーク共和国選手団えひめキャンプ実行委員会」を立ち上げ、えひめグローバルネットワークは実行委員の一員として参加・協力した。

2019年7月17日、愛媛県庁において、在日モザンビーク大使館、モザンビーク・オリンピック委員会と愛媛県、松山市、新居浜市および伊予市との事前合宿に関する基本合意書調印式が開催され、出席した。翌日は、ユネスコスクールとしてモザンビークとの交流を13年間継続している松山市立新玉小学校を訪問し、マナベ会長、セザール事務局長を迎えた全校生徒による交流会のサポート・アテンドを行った。各学年がそれぞれのプログラムを用意したほか、全校生徒による応援、応援旗の作成・展示、カプラナ布で作ったリストバンド、モザンビークの国旗で応援し、給食やスポーツを通じた交流会で、愛媛とモザンビークの友好関係を深めた。午後は、新居浜市や教育委員会、新居浜グローバルネットワークとの連携により、別子銅山の見学や小学生・高校生との交流会が行われた。

その後、7月31日より8月13日まで、陸上選手2名、空手選手1名、コーチ1名、合計4名の選手団による合宿が行われた。当団体は、これまでにモザンビークに渡航した人たちやこれから渡航予定の高校生たちとの交流会を開催し、選手団に向けてエールを贈った。

続いて、10月26日より11月8日まで、ボクシング選手3名とコーチ1名、パラリンピック陸上選手2名、伴走者1名、コーチ1名、合計8名の合宿が行われ、みなら特別支援学校交流会へのアテンドや交流会を開催し、モザンビークのオリンピック・パラリンピック選手団に向けてエールを贈った。

当団体は、今回のモザンビークと愛媛のスポーツ交流を機に、今治市で「ESD 拠点」となった「IKEUCHI ORGANIC」との協働による「オリンピック・パラリンピック応援商品」となるモザンビークの国旗刺繍入り、さらに「ESD」の登録商標のマーク入り、オーガニック&フェアトレードタオルとタオルハンカチの商品を作成した。活動紹介も含め、マンガで商品開発の流れを紹介するリーフレットも作成した。

また、2020年東京大会においては、大会組織委員会が調達する財・サービスに関し「持続可能性に配慮した調達コード」が策定されていることから、「農業生産工程管理(GAP: Good Agricultural Practice)の共通基盤に関するガイドライン」に準拠した食材をつかった「おもてなし交流事業」の準備が伊予農業高校や南宇和高校で取り組まれており、当団体は、モザンビークについて学ぶサポートを両校に対して行った。2019年12月～2020年1月の投票結果で、南宇和高校が事務局長賞を受賞した。

年度末、2020年2月初旬のモザンビーク渡航時には、愛媛県庁職員のモザンビーク訪問スケジュールと日程調整し、オリンピック委員会や日本大使館訪問等を同行し、愛媛とモザンビークのスポーツ交流をサポートし、友好関係を深めた。





## 【関連スケジュール】

- ① モザンビークオリンピック委員会と愛媛県、松山市、新居浜市及び伊予市との事前合宿に関する基本合意書調印式  
開催日:2019年7月17日(水)  
場 所:愛媛県庁本館3階知事会議室(愛媛県松山市)
- ② 新玉小学校交流会  
開催日:2019年7月18日(木)  
場 所:松山市立新玉小学校(愛媛県松山市)
- ③ 新居浜市内小学生・高校生との交流会  
開催日:2019年7月18日(木)  
場 所:マイントピア別子(愛媛県新居浜市)  
参加者:モザンビークオリンピック委員会会長、事務局長、新居浜南高校ユネスコ部4名、顧問1名、新居浜東高校生徒5名、惣開小学校児童2名、引率教諭1名、えひめグローバルネットワーク1名
- ④ モザンビークオリンピック選手団交流会  
開催日:2019年8月4日(日)  
場 所:えひめグローバルネットワーク(愛媛県松山市)
- ⑤ みなら特別支援学校交流会  
開催日:2019年10月30日(水)  
場 所:みなら特別支援学校(愛媛県東温市)
- ⑥ モザンビークオリンピック・パラリンピック選手団交流会  
開催日:2019年11月3日(日)  
場 所:コムズ(愛媛県松山市)





## (2) 研修報告

村でモリンガの育成に従事する青年 Fernando Carlos Mondorane 氏をモザンビークから招へい(2019年9月21日~12月14日)し、有機農業研修を行った。

研修期間中は、オリエンテーションで日本語やPC操作方法、SDGsについて学んだ後、愛媛大学生や愛媛県立西条高校、聖カタリナ大学、松山市立東雲小学校、同清水小学校等、訪問を通じて、大学生や生徒向けに、モザンビークの紹介や文化等について伝えるとともに、愛媛県新居浜市でのホームステイ、香川県善通寺市で実施されたかがわESDまつり、愛媛県宇和島市吉田町で開催された国際交流に参加するなど、積極的に交流を行った。

技術研修は、牛糞と枯草を利用した堆肥づくりなど有機農業と食品加工に関わる研修をNPO法人どんぐり王国の協力を実施するとともに、4R研修として四国糧油(株)の協力のもと、塗装や裁断、研磨などの加工・工作機械を用いた研修を行った。

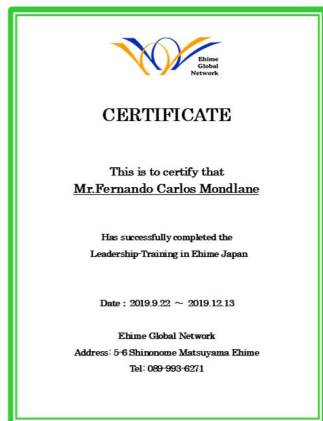
フェルナンド氏は帰国後、シニャングアニーネ村のセミナーで研修報告を行い、現在も、学んだ事を住民に教えながら実践しており、リーダーシップをとれる人材として、さまざまな活動を展開しようとしている。

### 【有機農業研修内容】

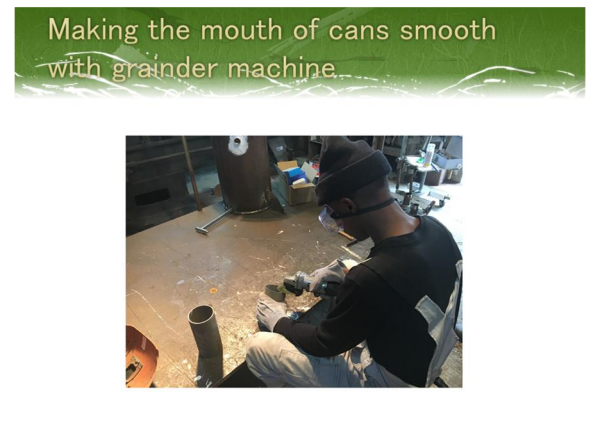
- ① 堆肥づくり基礎(鶏糞、牛糞等の利用)および、アメリセンター見学アレンジ
- ② 調理設備の整備(ピザ窯づくり、ソーラークッカーの実験)
- ③ 養鶏(卵の扱い方、エサの配合など)
- ④ 食品加工、調理実習(たこ焼き、お好み焼き、漬物等の保存食など)

### 【4R研修内容】

- ① 金属リサイクル品への塗装
- ② 裁断、研磨、加工・工作機械使用実践
- ③ 紙のリサイクル、封筒・紙片再利用
- ④ SDGs スタンプ制作
- ⑤ 4R商品化に向けた検討



どんぐり王国広報誌 11月号で紹介 EGN発行研修了証





【研修スケジュール一覧】

9月		10月		11月		12月	
1日		1火	日本語レッスン	1金	有機農業研修	1日	(休み)
2月		2水	日本語レッスン、モザンビークデー準備	2土	有機農業研修 EGN懇親会	2月	進捗状況確認と連絡調整
3火		3木	・武器アートについて自主学習 ・モザンビークデー準備	3日	モザンオリバラ選手交流会	3火	有機農業研修
4水		4金	・ゴマ選別、検品作業 ・PC練習	4月	里山保全活動参加@どんぐり王国	4水	有機農業研修
5木		5土	・モザンビークデー ・日本語で自己紹介	5火	4R研修@四国糧油株	5木	まとめ
6金		6日	・どんぐり王国里山見守り隊参加 ・農業研修打ち合わせ	6水	自主学習	6金	まとめ
7土		7月	・事務所掃除	7木	自主学習	7土	研修発表会
8日		8火	アメニセンター視察 どんぐり王国訪問	8金	自主学習	8日	休み
9月		9水	自主学習(タイピング、翻訳)	9土	西条農業産業祭1000-1500 聖カタ:モザン交流会1700-1800	9月	進捗状況確認と連絡調整
10火		10木	自主学習(タイピング、翻訳)	10日	4R研修@リックル0930-1300	10火	日本語レッスン PC研修/4R研修
11水		11金	四国糧油工場見学	11月	進捗状況確認と連絡調整	11水	有機農業研修
12木		12土	雄郡小学校人権集会 午後:有機農業研修	12火	4R研修@四国糧油株	12木	有機農業研修
13金		13日	たこ焼き研修	13水	東雲小学校芋ほり@コミュニティ ファーム0830-1000 消しゴムハンコ制作09:30-12:30	13金	まとめ
14土		14月	有機農業研修	14木	清水小学校訪問	14土	松山→東京(羽田)発
15日		15火	自主学習	15金	自主学習	15日	マプト着
16月		16水	自主学習(タイピング、翻訳)	16土	吉田町プレーパーク参加	16月	
17火		17木	金城産業工場見学	17日	コモンビート体験会@清水公民館	17火	
18水		18金	自主学習(タイピング、翻訳)	18月	進捗状況確認と連絡調整	18水	
19木		19土	みんなの生活展 清水小学校バザー(11:00-14:00)	19火	4R研修@四国糧油株	19木	
20金		20日	ソーラークッカー設置準備	20水	有機農業研修	20金	
21土	マプト発	21月	自主学習(翻訳、書き写し)	21木	有機農業研修	21土	
22日	松山着 ・EGN事務所訪問	22火	PC、翻訳作業	22金	有機農業研修	22日	
23月	・オリエンテーション ・日本語挨拶の練習 ・EGN理事との交流 ・西条市立図書館訪問 ・武器アート展見学	23水	有機農業研修 味噌作り 堆肥作り	23土	普通寺ESDまつり	23月	
24火	・日本語レッスン@EPIC ・日本語自主学習	24木	有機農業研修 習字、お好み焼き作り	24日	国際交流カフェ@吉田町公民館	24火	
25水	・自主学習(英語版日本語学習の本、松山市の地図のリーディング、ライティング) ・愛媛大学生と松山市内観光(道後エリア、愛媛大学、中央図書館)	25金	有機農業研修	25月	進捗状況確認と連絡調整	25水	
26木	・愛媛県立西条高校訪問、文化祭視察	26土	有機農業研修	26火	4R研修@四国糧油株	26木	
27金	新居浜市ホームステイ参加 ・新居浜市中学生スピーチコンテスト見学 ・ホームステイ	27日	(休み)	27水	有機農業研修	27金	
28土	新居浜市ホームステイ参加 ・あかがねミュージアム訪問 ・太鼓祭りミュージアム見学 ・新居浜市SDGsアートフェスティバル見学	28月	進捗状況確認と連絡調整	28木	有機農業研修	28土	
29日	・ユネスコ協会四国ブロック大会(新居浜参加) ・エクスカッション参加(別子銅山近代化産業遺産視察 日暮別邸~星越駅舎)	29火	4R研修@四国糧油株	29金	有機農業研修	29日	
30月	・自主学習 ・ポルトガル語の本を英語へ翻訳作業 ・愛媛県庁記者クラブへモザンビークデーチラシ投函、新玉小学校挨拶、訪問	30水	AM:自主学習 PM:有機農業研修 (ソーラークッカー組立)	30土	有機農業研修	30月	
		31木	有機農業研修			31火	

### (3) 募金活動、モザンビーク・デー、帰国報告会、武器アート展

#### ① 募金活動

今年度はモザンビークで発生したサイクロン災害支援もあり、小学生から中高生、保護者のみなさま、大学生、留学生による募金活動への協力、多くのおみなさまから募金や寄付をいただいた。ご協力くださったみなさまへ心からお礼申し上げます。下記は、募金やバザー等、有志のみなさまで行った活動名をあげており、これ以外では、当団体が継続的に行っているものや個人や団体からいただいた寄付もあることを申し添えておく。

お預かりした募金や寄付は、最も被害が深刻であったモザンビーク中部のベイラならびにその周辺地域で活動する現地NGOや学校へ物資やメッセージを届けるとともに、継続的に支援を続けているシニャングァーネ村の公民館ならびに学校修繕、コミュニティづくり支援のために活用した(詳細は報告参照)。



松山市駅前での街頭募金活動

- ・4月 松山市駅前街頭募金活動
  - ・5月 今治フェアトレード、モザンビーク帰国報告会
  - ・6月 サイクロン募金、松山市駅前街頭募金活動
  - ・7月 聖心女子大学サイクロン支援募金寄付、養生会関係者
  - ・9月 サイクロン募金、愛媛県立東高校文化祭バザー、愛媛県立西条高校文化祭募金バザー
  - ・10月 モザンビーク・デー募金、生活展募金
  - ・1月 どんごん様募金箱、松山市立清水小学校募金活動等
  - ・2月 すし友様寄付
  - ・3月 松山市立北条小学校募金寄付
- (以上は活動として実施されたものの一部他、個人や団体からいただいた寄付がある)

#### ② モザンビーク・デー、帰国報告会

開催日: 2019年10月5日(土)

場所: 愛媛大学(愛媛県松山市)

参加者: 約15名

主催: 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク、日本・モザンビーク市民友好協会

協力: 愛媛大学社会共創学部・山中研究室

後援: 四国地方ESD活動支援センター

(この会は地球環境基金の助成を活用して実施した)

内容: 8月に実施した「モザンビークESDツアー」の参加者からの帰国報告とモザンビークから研修で来日中のフェルナンド氏の紹介など、盛りだくさんの内容で実施された。現地報告とあわせて、SDGsについて、東京・オリンピックパラリンピック開催に向けてホストシティとなった愛媛県ならびに関係市と連携しながら、モザンビークのオリンピック選手と市民交流を深めていること等の共有とともに、平和な持続可能な社会づくりにむけて、私たちひとり一人にできることは何かについて、一緒に学び、考え、交流する機会となった。

## A Happy Mozambique Day! モザンビーク・デー 開催!

**SDGs**って聞いたことがありますか?  
平和で持続可能な社会づくりのために、私たちひとり一人にできることって何でしょうか?  
愛媛県は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、モザンビークのホストシティとなり、オリンピック選手と市民との交流を深めています!そして、えひめグローバルネットワークでは、地球環境基金助成により「モザンビークESDツアー」を実施、高校生・大学生・教員が参加しました!  
日本とモザンビークを愛媛でつないで発信していく「モザンビーク・デー」で、初めてモザンビークを訪問した高校生たちが現地学んだこと、気づいたことなど体験談を発表します!一緒に学び、交流しましょう! ▶参加費無料

\*\*\*\*\*当日プログラム\*\*\*\*\*

- 主催者挨拶・地球環境基金事業説明(ESD・SDGs説明含む)
- 竹内里子(えひめグローバルネットワーク代表)
- 帰国報告発表
- 三宅川ひなた(愛媛大学附属高等学校2年生)
- ウエストロップはんなん(今治明德高等学校矢田分校1年生)
- 松田達也(西条高等学校教諭)
- 竹内里子(神戸市外国語大学2回生)
- 研修生紹介
- フェルナンド・カルロス・モンドラーネ
- 質疑タイム交流
- モザンビークのクッキーや紅茶で交流しましょう!
- 総評・閉会挨拶
- 山中亮(愛媛大学社会共創学部地域資源マネジメント学科スポーツ健康マネジメントコース准教授)

ESDは、Education for Sustainable Development(持続可能な開発のための教育)の略称。SDGsは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称。

2019年10月5日(土) 14:00-16:30

**愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市文京3-3)**

総合研究部 3F「ラーニングcommons 2」

▼主催(参加申込、問い合わせ先)

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
日本・モザンビーク市民友好協会  
790-0803 愛媛県松山市東雲町5-6  
Tel: 089-993-6271 Fax: 089-993-6227  
メール: wakakaku@egn.or.jp  
URL: http://www.egn.or.jp/  
FB: http://www.facebook.com/wakakaku.egm

▼協力  
愛媛大学社会共創学部・山中研究室

▼後援  
四国地方ESD活動支援センター



報告会の様子



### ③ 武器アート展示

#### ● 松山市平和資料展での展示

開催日:2019年7月24日(水)~7月30日(火)  
場 所:松山市総合コミュニティセンター(愛媛県松山市)  
主 催:松山市市民参画まちづくり課  
来場者:約 5,500 人  
内 容:モザンビークの平和支援をテーマに、武器アートや ESD 刺繍、関連書籍等の展示を行った。SDGs に関する普及啓発パネル一緒に展示したこともあり、今、平和な世の中を次世代へつなぐために何ができるかを、展示資料等を通して色鮮やかに発信することができた。



コミュニティセンターでの展示

#### ● モザンビーク「武器アート展」

開催日:2019年9月3日(火)~9月23日(月)  
場 所:西条図書館(愛媛県西条市)  
主 催:西条市国際交流協会、国際交流をすすめる会  
協 力:えひめグローバルネットワーク、四国 ESD センター  
来場者:2 万人  
内 容:武器を立体アートに作り変えた作品を展示し、来場者を感じたことを感想ノートに書いてもらった。生で武器をみたのは初めて、という感想も多く、平和についてそれぞれが考える機会となった。



#### ● モザンビーク 武器アートとともに語る会

開催日:2019年9月8日(日)  
場 所:西条図書館(愛媛県西条市)  
参加者:約 15 名  
内 容:上記、展示会の関連企画としてワークショップを行った。講師は代表の竹内が務め、他、ウェストロップハンナ氏(今治明德高等学校矢田分校1年)、松田達也氏(愛媛県立西条高校教諭)、同西条農業高等学校食農学科2年生4名が事例報告を行うなど、多様な登壇者の話を聞き、自分たちにできることは何かを考えながら、SDGs とのつながりを学ぶ機会となった。

#### ● 「武器をアートに」映像資料制作協力

2018 年度に聖心女子大学グローバル共生研究所主催で開催された「武器をアートに」特別展示に協力し、武器アートの展示・撮影への貸し出しを行うとともに、学生向けに開催したワークショップのファシリテーションの様子が、映像資料となって完成した。現在、同研究所と国立民族博物館等の関係機関ならびに関係者との調整を行っており、準備が整えば一般公開される見通しである。



西条図書館での展示

## TOPIC

### モザンビークにおける和平協定の締結

与党のモザンビーク解放戦線(FRELIMO)と、最大野党のモザンビーク民族抵抗運動(RENAMO)が、2019年8月1日、停戦協定に署名、その後の8月6日には、和平合意に署名したニュースが、日本国内でも一部の報道機関により報道された。今後、選挙の結果や動向にこのことがどのような影響を及ぼすか、予測できない部分もあるとされるが、和平に向けてまた一歩前進する1年となった。



## 4. フェアトレード事業：フェアトレード普及啓発

### (1)オリパラ応援商品タオル、漫画、マーク、ショピファイ

#### ● オリパラ応援商品タオル

ESD 活動推進拠点の IKEUCHI ORGANIC(株)との協働企画で、モザンビークと日本の交流を応援と ESD 推進を PR するコラボ商品を制作した。

企画したオリジナルフェイスタオルやタオルハンカチは、事前合宿のために来日したモザンビークオリンピック・パラリンピック選手に愛媛県から贈呈されるなど、交流の懸け橋として役立てた。また、今後、市民にも使ってもらえるよう、愛媛県内の高校の文化祭等で販売した他、ショピファイのサイトでも販売ができるよう、準備を行った。



えひめグローバルネットワークは、フェアトレード商品開発を目的に、2019年7月、愛媛県今治市IKEUCHI ORGANICにて、海外許可代表よりフェアトレードかつオーガニックコットンを使用したタオル製品の製造工程、品質管理、商品企画について学びました。これらの商品は、その研修のご縁から生まれたIKEUCHI ORGANICとのコラボ商品です。



#### ● フェアトレード応援マーク

四国内でのフェアトレードを推進するために立ち上げられた、四国フェアトレードネットワーク(通称:4FT)が考案した、フェアトレード応援マークが完成し、さまざまな PR で活用されるようになった。当団体でも、コーヒラベルをリニューアルし、応援マークを付けた商品として販売準備を進めた。その結果、今治市にある ESD 活動推進拠点として登録された平野薬局のイベント等でも販売してもらうなど、四国内でのフェアトレードを盛り上げるための素地づくりができた。

**TOKYO 2020 モザンビークと一緒に応援しよう!**

愛媛県と松山市・新居浜市・伊予市は  
東京オリンピック・パラリンピック競技大会  
モザンビーク共和国のホストタウン!

2019年度から2021年12月31日まで

- 大会場に参加するために毎日する選手等との交流
- 大会会場・会場の清掃等との交流
- 日本人オリンピック・パラリンピアンとの交流 など予定されています

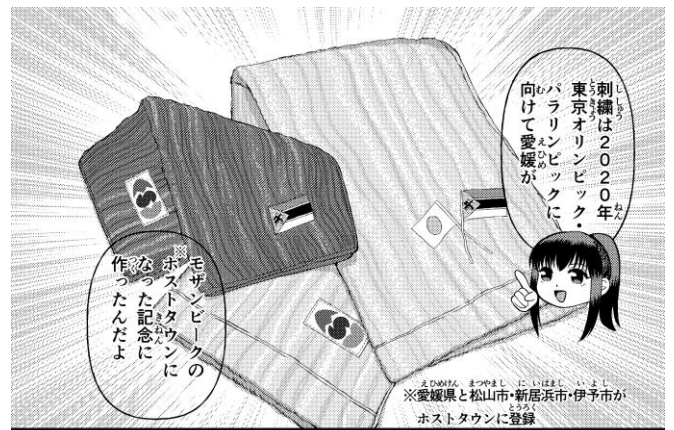
モザンビークと愛媛県は友好関係にある。2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を前に、えひめグローバルネットワーク(EGN)はモザンビークの発展、市民の手を結ぶための活動を開始する「愛媛県へ」平和旗プロジェクトを実施。「エゴビース」プロジェクト、小学館出版事業、シニアボランティア等での支援活動、公園プロジェクト等、さまざまなモザンビーク支援活動を実施。合わせて、モザンビークと愛媛県と結ぶ旗プロジェクトを実施した。2020東京オリンピック開催に向け、愛媛県各町のESD拠点であるIKEUCHI ORGANICとともに、ESDの普及促進に努めることを目的に、IKEUCHI ORGANICタオル・ハンカチフェアトレード応援商品を開発しました。IKEUCHI ORGANICと共に、モザンビークを応援しよう!

ESD ITネットワーク

4FT (四国フェアトレードネットワーク) は、地産物産とフェアトレード (国際協力活動) を推進している四国4県ネットワークです。

#### ● 河原学園との協働で制作した「本気 SDGs」

東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、商品購入を通して考えるきっかけとなるよう、4コマ漫画を制作した。





● ショピファイ(shopify)サイトの開設

宗像財団や地球環境基金事業等の支援継続の成果もあり、モザンビークの支援地域の村ではさまざまなグループが立ち上がった。その中でも、村の女性たちによる刺繍や縫製の活動は盛んで、カプラナやマスク、バックなどの制作が進んでいる。これらの商品をPRし、販売できるようショピファイのサイトを立ち上げた。

サイト立ち上げに当たっては、専門家からアドバイス等を受け、どのようなコンセプトでサイトを作るかの議論を重ねた結果、フェアトレードや海外支援を身近に感じてもらえるようなサイトとすることが決定した。

今後は、サイト内の商品を充実させ、サイトを通じて販売が促進できるような仕組みづくりを進める。

検索→ ワクワク・カフェ



<https://wakuwaku-cafe.org/>

本気SDGsの取り組みについて

えひめグローバルネットワークは、「国際協力」「環境」「ESD(持続可能な開発のための教育)」「パートナーシップ・ネットワークづくり」を軸とした市民活動団体です。1998年に任意団体として発足し、2005年にNPO法人化しました。国内では四国を中心に全国で活動し、海外ではアフリカ・モザンビークで20年以上にわたり、平和支援・コミュニティ開発に取り組んでいます。

SDGsは、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標ですが、えひめグローバルネットワークでは、その前身となるMDGs(ミレニアム開発目標 2000-2015)から取り組みを始めました。現在、日本政府から「SDGs実施指針改訂版(2019年12月22日)」が示され、多様な主体と共に「ローカルSDGs」の具体的な取り組みを進めていくことが求められています。

そんな中、えひめグローバルネットワークは、IKEUCHI ORGANICのモノづくりに対する徹底的なこだわり、オーガニック・フェアトレードへの理解と実践的な取り組みに共感し、TOKYOオリンピック・パラリンピック2020でモザンビークの応援につながる記念タオルの制作でコラボすることができました。SDGsを知って、学んで、行動できるよう、ESDのロゴマークがついた国内初のタオル・ハンカチです。(IKEUCHI ORGANICのものづくり動画)

収益は、モザンビークで行うスポーツ交流・支援活動や現地で起きたサイクロン・タイ(2019年3月)の被災者支援に活用されます。私たちが毎日使うタオルやハンカチ、身近なモノからSDGsやESDに触れ、一緒に考えて...「Leave no one behind! (誰も取り残さない)」をみんなの連携・協働で実現しましょう!



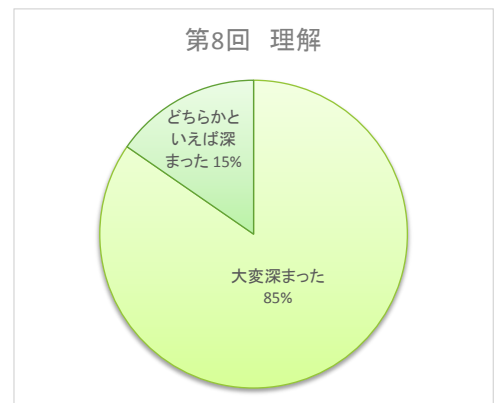
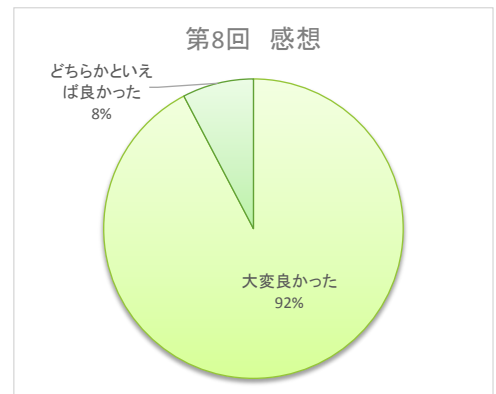
わたしたちは、持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

商品に関するお問い合わせ: 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
790-0803 愛媛県松山市東雲町5-6 Tel: 089-993-6271 Fax: 089-993-6227  
e-mail: wakuwaku@egn.or.jp http://www.egn.or.jp

## (2) JICA フェアトレード研修・JICA 理事長賞

### JICAフェアトレード研修(第8回研修)

- ・開催日:2019年5月11日(土)
- ・場 所:エコみらいとくしま会議室(徳島県徳島市)
- ・主 催:特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
- ・共 催:四国 NGO ネットワーク
- ・参加者:22名
- ・内 容:フェアトレードな暮らしがまちを変える ～フェアトレードタウンづくりへ向けて～と題し、長坂寿久氏(逗子フェアトレードタウンの会代表理事)を講師に、これまで行われた7回の研修の総まとめとして、フェアトレードタウンづくりのプロセスを学んだ。また、四国のフェアトレードタウンづくりの具体的な検討を行い、各団体、各県の状況とその成果発表(研修後の取組予定など)を共有、四国の「オリジナル商品(特産品×フェアトレード)」づくりの販売案など、全研修を総括し、四国フェアトレードネットワークの活動状況を共有し、次なる展開・ステップについて意見交換した。研修後のアンケート結果は下記のとおり。受講者(NGO 団体)からは、「これからは自分の周りのネットワークを大切に活動を展開していきたい」との感想が多数あったことから、本研修は四国の NGO 団体のフェアトレードを推進する一助になったことを実感できるものとなった。フェアトレード商品開発へ向けた NGO と地元企業等が徳島、愛媛で形成され、香川、高知では地域のコミュニティや自治体、教育機関とが連携した新たなネットワークが構築された。



研修参加者集合写真

### JICAフェアトレード事業総括

- ・2018年2月から2019年5月までの3カ年度に渡り8回の研修を実施し、受講者数は113名(57団体)の参画を得て、本事業は実施された。研修は、NGO 職員のフェアトレード商品開発スキルの習得、企業連携を進めるためのノウハウの取得、自己資金獲得、広報、ネットワーキングによる団体の組織強化につなげるという目標を掲げ、実施してきた。この1年3ヶ月の研修実施期間中に、団体によってさまざまな変化がみられた。
- ・その中には、世代交代による変化や活動の方向転換により、「フェアトレードに取り組む関心度や熱意」に変化が生じたところもある。当初は、停滞感を感じている団体も少なくなかったが、本研修で県内外の仲間の存在を知り、また、自分たちの活動拠点の身の回りのネットワークと連携協力が進んだという団体もみられた。



・そのことから、この研修が、各団体の国際協力活動の基盤をより確実な基盤とするべく、方向性を示す役割を果たせたのではないかとみている。研修を受けた NGO や地元企業が、地元自治体を含めた多様な主体との連携を進めようという動きにつながっていることなどからも、変化を確認することができた。

・また、本事業をきっかけに各県にネットワークが形成された。

愛媛県：4FT 愛媛代表である村田代表は、生豆輸入元有限会社ハレルヤのオーガニックコーヒーをプロデュースし、4FT 事務局と連携販売の可能性を切り拓いた。また当団体は、wakuwaku-youth と連携したフェアトレード商品販売促進を継続し、商品名称変更やマグネットやタオルなどの新商品の販売展開を検討する流れができた。愛媛県立今治西高等学校海外研究部は、SDGs「12 持続可能な生産と消費」の理解と実践 ～フェアトレード運動を通じたシビック・プライドの育成～と題したパンフレットを作成、事務局と連携しながらフェアトレードタウン運動を今治市にて継続展開している。

香川県：4FT 香川代表である丸山代表は、フェアトレードアンケートの実施やフェアトレードマップ作成など、普及啓発活動を展開している。公益社団法人セカンドハンドは、カンボジアフェアトレード商品販売拡大、マラウイ商品を扱う田村氏は、マラウイ布商品の販売拡大を進めている。

徳島県：4FT 徳島代表である笠井代表は、自身が代表を務める株式会社や NPO 法人の経営を通して、徳島のフェアトレード活動を推進し、四国地方 ESD 活動支援センターなどとも連携を図りながら活動を展開している。

高知県：4FT 高知は共同代表体制をとりながら、今あるネットワークを大切にしつつ、今後の展開を模索している。

## トピック：第 15 回 JICA 理事長賞、松山市政・議会功労者表彰受賞

### ■ ■ ■ 四国から世界へ。市民による身近な国際協力 ■ ■ ■

EGN は愛媛県と世界の人々がつながる拠点として、四国における JICA と NGO の連携促進や、四国 4 県のいくつもの NGO が連携して活動できる環境の整備などを 20 年以上にわたって取り組んできたことなどが、認められ、同賞を受賞した。今年度は、同賞受賞だけでなく、松山市から松山市政・議会功労者表彰も受賞した。

今回、これらの賞をいただくにあたり、20 年を振り返ると、いくつかの転換点があったことをあらためて確認した。



- ① JICA 四国支部主催のセミナーに参加し、当時の支部長の「国際協力とは相手の人権を認め、守ること」の発言がきっかけとなり、後に発足することとなった当団体のミッションに「同じ人間として対等な立場でサポートを必要とする人々の社会的・経済的自立を援助するため、市民参加による国際協力活動を実践すること」を掲げたこと
- ② モザンビークの内戦終結後に武器を市民が自ら回収し、生活物資と交換して平和教育とともに武装解除を進める「銃を鋤へ」プロジェクトに感銘を受け、松山市に NGO などへ放置自転車を無償で譲渡できるように条例の見直しを提言し、銃との交換物資となり得る放置自転車を 2000 年から複数回、ミシンや文房具などといっしょにモザンビークへと送ったこと
- ③ 「四国フェアトレード商品開発研修」企画立案が、JICA の NGO 等提案型プログラムにも採用され、四国内でフェアトレードをキーワードとした仲間づくりと普及促進活動の今につながっていること

荣誉あるこれらの賞をいただけたのは一人の力ではなく NGO の仲間たちやご支援くださる方々がいらしてくれたからこそ、まだまだ、四国内での活動には多くの課題があり、引き続き、多様な主体と、連携・協働・協業を進めたい。

## II. 環境保全事業

### 1. 環境省・四国環境パートナーシップオフィス管理運営等業務

#### ① 中間支援機能の強化

- 各県で県が主催または関係する委員会への委員就任、委員会や審査等などへの参画の機会を通じて、業務で得た経験や知見を提供、各種支援情報の受発信を行った。
- 各県に配置されているサテライトデスクや専従スタッフが各県を担当することにより、まんべんなく情報の受発信を行う体制が確保できた。また、担当者がいることにより、外部との関係性の深化や委員会などへの参加によるつながりの強化やフォローアップを実施することができた。
- 他団体と協働し、各主体の強みを活かした事業を役割分担しながら、講演会やイベントなどの事業を協働で行うことができた。
- 環境カウンセラー等と連携し、エコアクションや環境活動、SDGs に取り組む企業への講演やワークショップ、事例の提供を行った。また、地元企業や行政、学校で SDGs をテーマとした勉強会や話題提供の機会が多くあった。プラスチックごみや SDGs に関するテーマでの出展や講演が多かったため、世間の関心の高まりを認識する機会となった。
- 各県での環境関連イベント等への出展による情報提供や普及啓発活動を行い、環境活動団体の紹介や四国 EPO、ESD センター、SDGs などを PR した。

#### ■徳島県

- (株)井上組での研修会  
開催日:2019年11月13日(水)  
場 所:(株)井上組(徳島県つるぎ町)  
参加者:6名  
内 容:エコアクション 21 を取得した企業に対し、SDGs の視点から企業活動の内容を捉え直すための研修会を開催した。四国 EPO から SDGs や地域循環共生圏について説明を行い、その後のワークショップで、企業活動の内容を付箋に書き出し、SDGs のゴールや重要な視点に照らし合わせる作業を行った。四国 EPO が、ワークショップで出た意見から曼荼羅図を作成し、フォローアップすることになった。



#### ■香川県

- 令和元年度気候変動講演会  
開催日:2019年12月1日(日)  
場 所:かがわ国際会議場(香川県高松市)  
主 催:高松地方气象台、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、四国 EPO、香川県、高松市、(公財)香川県環境保全公社  
出席者:約 150 名  
内 容:気候変動に関する関心を高めることを目的に、講師を招き、講演会を開催した。地球温暖化が進むことでさまざまなリスクが懸念されていることやそのリスク対応として適応策、緩和策が進められていることが情報提供された。温暖化により、異常気象の発生確率が高まることや、原因に直接の責任がない途上国や先住民、次世代という利害関係者へ深刻な影響が考えられることからイノベティブな技術開発を待つとともに、個人として関心を持ち続けること、積極的に気候変動対策を行う企業を応援するなど、個人でできることに取り組むことが大事であることが提言された。四国 EPO は当日司会進行を担い、多様な主体が協働した会を開催することができた。



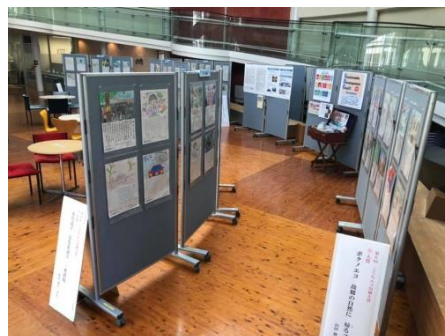
#### ■高知県

- えこらぼ環境展  
開催日:2019年12月16日(月)  
場 所:こうち男女共同参画センター(高知県高知市)



主 催: 高知県環境活動支援センター、高知県温暖化防止活動推進センター

内 容: 12月16日～21日まで開催される展示の設営を行った。本年度募集した「ECO 川柳」の入賞作品(14句)と、温暖化防止に関する情報パネルの展示が行われ、四国 EPO もSDGs の説明パネルと海ごみに関して環境問題を考えるきっかけとなるような展示を行った。



## ② 相談対応及び情報収集・発信

- 多様な分野の地域課題とESD環境パートナーシップとのかかわりづくりにおいて、今年度は生涯学習等につながる関係性ができた。
- 過去に関わりがあった主体を通じ、新規に講演会や話題提供の依頼など、新たなつながりができた。
- エポへの相談等をきっかけに、授業や講義の企画、実際に講義で登壇するなど、つながりやきっかけがさまざまな成果へとつながり、各スタッフの相談対応に関するスキルアップやコーディネート能力の向上にもつながった。
- 団体間のマッチングやコーディネートなどの好事例につながったきっかけを「ベストプラクティス」として毎月蓄積するように努めたことで、中間支援に結びついたプロセスを可視化することができた。
- 各種、会議やイベントへの参加で得た情報や連携先 HP 等から得た情報を HP やフェイスブック、季刊誌、個別訪問や取材等を通して、関係者や情報を必要としている人へ届けた。また、スポット的に高松リビング新聞社「リビングたかまつ」や高松西ロータリークラブなどの広報物を通じて、最近のトピックスやイベント情報を四国内外へ拡散した。
- 徳島新聞、四国新聞、愛媛新聞、高知新聞、朝日新聞、日本経済新聞から SDGs をテーマとした記事の収集を行い、データベース化を行った。これらの情報を活用し、環境情報 ML や ESD センターML の記事作成のための基礎データとして活用した他、ホームページ上で公開した。
- フェイスブックやメーリングリスト、メルマガ、HP 等へ記事を掲載し、リンクや関係者へのお知らせを通して、カウント数などを増やし、幅広く広報を行った。
- 夏、秋、冬、早春の年 4 回で紙媒体を作成し、面談や講義、イベント等の際に配布するツールとして活用。年間 3,830 部配布した。
- 四国の市町村別に SDGs 情報(1年間の新聞データ)を整理し、データベースを作成後、マッピングデータに関連づけして一覧できるようにした。
- 訪問者数は、累計 825 人、会議スペース利用は累計 26 件、環境関連資料は 12 冊を収集し、訪問者へ HP、SNS で紹介を行った。
- 各県の中間支援組織や EPO ネットワークを活用して、情報交換勉強会や助成金説明会等を実施した。テーマや対象者に応じて、テレビ会議システムを導入するなどにより、参加者数の増加や県域をまたいだ情報共有等が進んだ。スタッフ側においても、テレビ会議システムの接続の経験やノウハウが充実し、テレビ会議参加者の満足度も以前より向上した。
- 他地域と比較して、四国内で特徴的な取り組みや優良事例に関する情報を収集し、「四国のすごい！」事例として HP に記事を 8 件掲載した。記事作成に当たっては、中間支援組織や運営委員からの情報提供により進めた。記事内容は、英語と中国語に翻訳、HP に掲載した。

受けた相談は、年間 422 件、月平均 35 件であった。相談を受けたセクターとしては、NPO が一番多く、次いで、行政、個人、企業であった。地域については、香川県が一番多く、次いで徳島県、愛媛県、高知県であった。SDGs テーマについては、目標 4 が一番多く、次いで 17、12 であった。

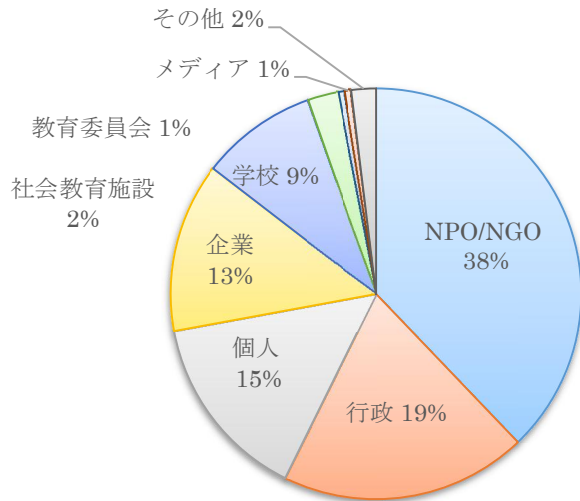
(参考) ☆四国内の SDGs 情報

26

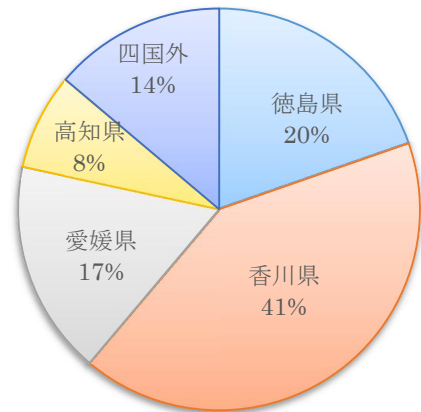
特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク  
2019 年度報告書

情報入手元	記事掲載日(年月)	概要・キーワード	関係する人物や組織等、掲載先	関係主体の種類	ターゲット目標
愛媛新聞	2018年5月1日	松山市議選 投票率戦後最低			17 目標達成に向けたパートナーシップ
愛媛新聞	2018年5月2日	愛媛でのサイクリングの魅力を世界に発信	伊予銀行		
愛媛新聞	2018年5月2日	愛媛県の視点から憲法を考える	松山青少年育成市民会 総 事務局長西川純		
愛媛新聞	2018年5月3日	愛媛大と県がYou see U-Seaのサービスを開始	愛媛大学、愛媛県		
愛媛新聞	2018年5月3日	障害者雇用の促進をめざし子会社を創設	伊予銀行		
愛媛新聞	2018年5月4日	誰でも楽しめるTSUBASA運動会が開催	NPO法人えひめ心のつばさ		
愛媛新聞	2018年5月8日	愛媛グローバル・フロンティア・プログラムの発表会が開催	愛媛新聞社		
愛媛新聞	2018年5月9日	松山商業高校の二年生が男子の農水産業者を訪問	松山商業高校、ベルグアース		

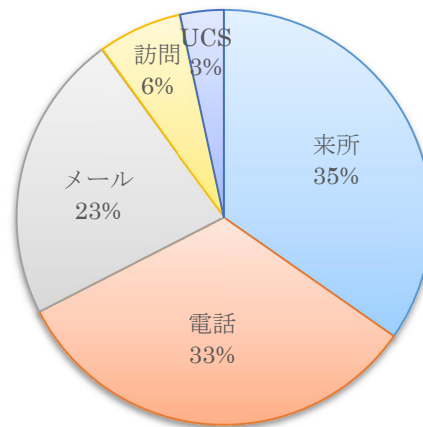




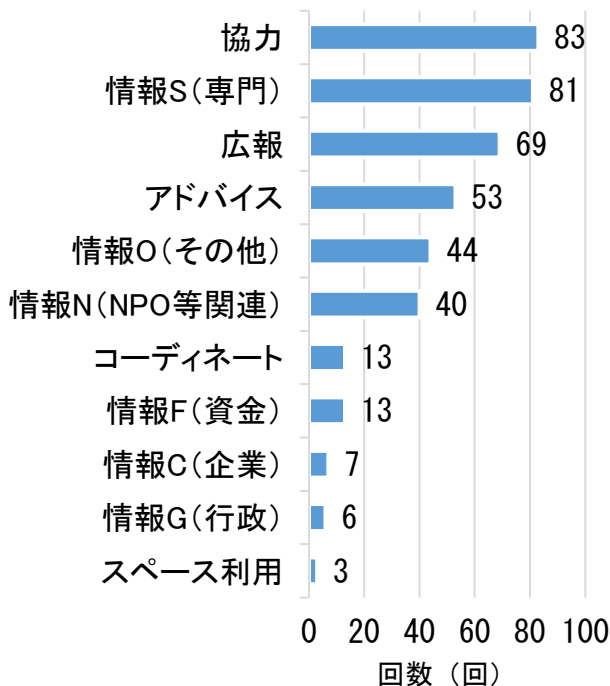
<図：相談のあったセクターの内訳>



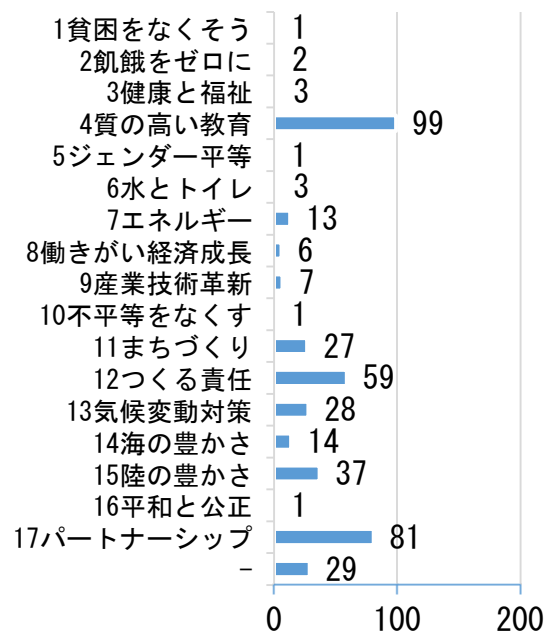
<図：相談のあった地域の内訳>



<図：相談時における四国EPOへのアクセス方法>



<図：相談のあった要望の内訳>



<図：相談のあったテーマの内訳>

## ① 政策提言支援

- 白書を読む会や SDGs 実施指針、休眠預金に関する意見交換会など、四国にも関係する日本国内全体の取り組みについて、関心のある方だけでなく、講演や委員会等の場でも発信し、理解や関心が深まるよう努めた。

## ■徳島県

- 環境白書を読む会  
開催日:2019年11月21日(木)  
場 所:エコみらいとくしま(徳島県徳島市)  
共 催:四国 EPO  
協 力:中国四国地方環境事務所四国事務所、(特活)環境首都とくしま創造センター  
出席者:8名  
内 容:環境カウンセラーから、徳島で環境白書を読む会開催の依頼があり、四国事務所と四国 EPO が講師を務めた。環境白書概要版を用いた説明と、地域循環共生圏について説明を行った。その後、参加者間で、一般向けへの広報の仕方などについて意見交換を行った。



## ■高知県

- SDGs 実施指針パブリックコメント勉強会  
開催日:2019年11月20日(木)  
場 所:こうち男女共同参画センター(高知県高知市)  
主 催:四国 EPO  
出席者:8名  
内 容:募集中の SDGs 実施指針案の内容を概説し、そのポイントについて説明を行った。その後、出席者間で意見交換を行い、防災だけでなく減災に関する追記の必要性や地方、海外とは違う日本独自の課題への配慮等、気づきを共有した。最後に、提出時に注意すべき事項等を説明し、できるだけ多くの市民からの提出を呼びかけた。



## ② 持続可能な社会の実現に向けた協働取組モデルの創出及び支援

- 各県における、NPO 等環境活動や協働取組へ意欲のある団体が集まる会合実施に向けた検討委員会や実際の会合に出席し、ニーズ把握をするとともに、役立つ情報提供を行った。
- 継続となっているグリーンギフト事業や過去伴走支援をした事業のフォローなど、協働につながる各種取組の伴走やアドバイスをしつつ、協働取組につながるプロジェクトの実施を支援した。
- 西日本豪雨災害で深刻な被害を受けた愛媛県の南予地域では、中間支援組織の設立に対するアドバイスや被災地域の活動団体に関する情報収集等も行い、防災や環境・経済や ESD につながる情報提供等を実施した。
- 新居浜 SDG アートフェスティバルや SDGs フェスなど、SDGs への関心が高まり、他団体との協働を通じた企画運営の動きが広がっている。他方への協力要請や協働での企画を実施することができた。

## ■香川県

- 第1回かがわSDGsアワード審査協力  
開催日:2019年11月2日(土)  
場 所:高松国際ホテル(香川県高松市)  
主 催:(公社)高松青年会議所  
出席者:約100名  
内 容:香川県内で SDGs を推進する気運を高める目的で開催されたアワードの審査委員として出席し、ファイナリスト5団体の発表後に審査を行った。SDGs は EPO が普段対象としている「環境」より広域であるため、他分野で取り組む企業について情報収集することができた。ブース出展を兼ねた情報交換会では、SDGs を今後どのように進めて





いくつかについての意見交換や社内で環境教育に取り組みたいので相談に乗ってほしいなどの話にも展開した。企業が作成した SDGs 手帳や県内の間伐材で作成された SDGs バッジなどのツールや情報を共有し、一層 SDGs の推進を目指す和やかな場となったことを確認した。

## ■愛媛県

- SDGs フェス in 西条(SDGs 講演、意見交換会、アイデア・マッチング交流会)  
開催日:2020年2月1日(土)  
場 所:西条市立図書館(愛媛県西条市)  
主 催:四国 EPO、(特活)西条まちづくり応援団、JICA 四国センター、(特活)えひめグローバルネットワーク、四国 NGO ネットワーク  
参加者:各イベント約 20~30 名程度  
内 容:SDGs をテーマとした講演、水をテーマとした工場見学などの後、四国各県の多様な主体が、今日の学びをふりかえる意見交換会を実施。西条市の新たな魅力や良さを見直す機会となった。

## ■高知県

- チャリティーショップを運営するコツ  
開催日:2019年12月7日(土)  
場 所:高知市市民活動サポートセンター(高知県高知市)  
主 催:全国チャリティーショップネットワーク  
協 力:四国 EPO  
参加者:11名  
内 容:寄付された品物をボランティアの協力で販売し、その収益を社会貢献活動に活用する国内外のさまざまな運営形態について、情報提供がされた。参加者からは運営に関する質疑があり、関心の高さを伺うことができた。四国 EPO としては、会場設営や使用機材の便宜を図り、スムーズな運営への協力ができた。



## 【持続可能な開発目標(SDGs)をツールとした民間活動支援業務】

- 昨年度に引き続き、(特活)郷の元気の『協働による「かみかつ茅葺き学校の展開」』の伴走支援を行った。昨年度末に事業で目指すべきゴールを再設定したことから、共通認識となった目標に向けた取組に向け、スタートを切ることができた。
- 上勝町が SDGs 未来都市に選定されたことを受け、町では上勝町 SDGs 推進委員会を設立、SDGs の達成に通じるビジョンづくりを進めることとなった。当事業との連動を視野に入れ、採択団体敗因として、四国 EPO はオブザーバーとして委員会に出席し、情報収集を行った。

### 上勝・八重地相談会

開催日:2019年4月16日(火)  
場 所:(特活)郷の元気事務所(徳島県上勝町)  
主 催:(特活)郷の元気  
参加者:4名(午前)、5名(午後)

内 容:昨年度設定した目標について現時点で齟齬がないことを確認し、それぞれの目標達成につながる意見交換を行った。目標の一つである、活用する山の資源として「恵みの食」や「循環のくらし」とすることや、地域の人々が地域の良さに自信を持つ上で、取組を一緒に行うことにより生まれる共感を大事にすることなどプログラムを作る上で重点を置く要素について意見出しをした。午後からは、事業で目指す目標の確認後、今年度実施するプログラムの具体的な検討を行い、内容と日程について予定案を作成した。また、定期的な実施するプログラムとは別に「てまがいプログラム」として花野邸の修繕や地域住民が担う地域の役割などに関わる企画も募集する方向で進めることになった。地域住民と参加者が苦労を共にすることで住民が地域について再考するきっかけや参加者の居住につながるプログラムの作成が期待される。



## 「かみかつ茅葺き学校」開催中

「特定非営利活動法人 郷の元気」(徳島県)の活動が、昨年度に引き続き、環境省「平成31年度持続可能な開発目標(SDGs)を活用した地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業」(略:SDGs同時解決事業)に採択されました!  
今年度は、茅葺き家・花野邸を拠点に「八重地蔵堂や上勝町の地域の伝統の発見と魅力発信」をテーマに取組を進めていきます。

### 昨年度の取組内容

昨年度は、茅葺きに必要な茅束の作成と、八重地蔵堂で受け継がれてきた暮らしの知識を教えたばかりでした。参加者が6日作業して集めた茅束は約500束。全て茅葺きのために、郷の元気から運ばれ、約1000束は積み重ねられました。地域の住民が協力して作業していた経験も素晴らしい。作業の後のお楽しみは、みんなで作る餅つきです。今年度は、今までの経験を活かして、茅束の作り方や、茅葺き家の魅力を発信していきます。









### 今年度の取組予定

八重地蔵堂や上勝町の魅力を感じていただけるイベントを開催予定です。親子連れから大人まで、いろんな方に楽しんでいただけるようなプログラムになっています。この他にも、さまざまなプロジェクトを計画中です。気になる方は、郷の元気にお問い合わせください。※日程内容は、変更になる可能性があります。

<b>5月17日(日)</b> <b>茅葺き体験</b> 茅葺き体験の準備や茅束の作成、収穫が楽しみです。	<b>6月8日(土)</b> <b>昔のこども遊び・どべり体験</b> 昔の遊びや、どべり体験など、昔の遊びを体験してください。	<b>8月4日(日)</b> <b>流しそめんと黒山遊び</b> 流しそめんや、黒山遊びなど、地域の伝統文化を体験してください。
<b>9月28日(土)</b> <b>稲刈りと茅のめくごはん</b> 稲刈り体験や、茅のめくごはん作りなど、地域の伝統文化を体験してください。	<b>10月26日(土)</b> <b>茅の織り・椅子しぼりとかきまげ</b> 茅の織りや、椅子しぼりなど、地域の伝統文化を体験してください。	<b>11月30日(土)</b> <b>黒山山で茅葺き体験と茅のめくごはん</b> 黒山山で茅葺き体験や、茅のめくごはん作りなど、地域の伝統文化を体験してください。
<b>12月21日(土)</b> <b>餅つきとしめ縄づくり</b> 餅つきや、しめ縄づくりなど、地域の伝統文化を体験してください。	<b>1月19日(日)</b> <b>山のめくごみでつくるほろろ餅とたけのこ</b> 山のめくごみでつくるほろろ餅や、たけのこなど、地域の伝統文化を体験してください。	<b>お申込み・お問い合わせ先</b> NPO法人郷の元気 かみかつ茅葺き学校事務局 TEL:070-0981-4779 メール:yako.hanabishi@gmail.com

- 第1回連絡会

開催日:2019年9月27日(金)  
 場所:郷の元気事務所(徳島県上勝町)  
 主催:四国EPO  
 出席者:5名

内容:環境省から地域循環共生圏について情報提供後、採択団体から事業取組について報告があった。前年度からの取組内容の転換や地元住民を巻き込んだことによる主体性の向上などが変化として表れていることが共有された。反面、外部人材の獲得を目指すまでがいプログラムが実施できていないなどを含め、現時点での活動の棚卸をする機会となった。今後はイベントのプレスリリースや金融をはじめとする企業の巻き込み、花野邸だけではなく、上勝を1つのパッケージとして事業を進める方針を確認した。



- 第2回連絡会

開催日:2020年1月30日(月)  
 場所:郷の元気事務所(徳島県上勝町)  
 主催:四国EPO  
 出席者:4名

内容:2月に東京で開催される成果共有会のプログラムの説明と、採択団体が発表する資料について意見交換を行った。これまでに作成した報告書類や、やってきたことを見直ししながら、2年間で行ってきたことと成果の整理を行った。発表資料に含まれている3年後の展開については、2月5日に開催する地元住民との次年度以降の進め方を話し合う場を経て作成することを確認した。



- ローカルSDGs ギャザリング 2020

開催日:2020年2月23日(日)  
 場所:国連大学(東京都渋谷区)  
 主催:GEOC  
 出席者:約80名

内容:2年間事業を行ってきた団体が一堂に会し、アピールタイムとコミュニケーションタイムを通じて、同時解決のプロセスや今後の取組のアイデアについて意見交換を行った。四国の採択団体からの発表では、これまで団体が助成金を獲得し、事業を実施してきた関係性があったことから、地元住民が郷の元気の手



伝いをするという構図があり、それを打破することから始まったと説明があった。また、主体性を含め、関係性を変化させるために、地元住民に対して適宜問いかけたことがポイントであったとふりかえりがあった。EPO は外の団体や情報をつなぎ、会議やイベントに参加して情報や意見を把握すること等に努めたことを説明した。全国アドバイザーからは、事業形成会議がきっかけとなり、事業で目指す方向性を見つめなおし、大きく取組が変化したことが評価され、2年間の総括となる報告会を無事に終えることができた。

#### 【四国森里川海連携シンポジウムの開催】

- 水・防災から考える！森里川海・流域連携ミーティング

開催日: 2020年2月2日(日)

場所: 西条市立西条図書館(愛媛県西条市)

主催: (特活)西条まちづくり応援団、(独)国際協力機構四国センター、四国 EPO、(特活)えひめグローバルネットワーク、四国 NGO ネットワーク

出席者: 約 50 名

内容: 「水・防災から考える!森里川海・流域連携ミーティング」と題したフォーラムを開催した。基調講演では、支援を行う国や過疎地域での事例提供があり、外部が介入することで解決への一歩になることや具体的な手法について紹介があった。四国四県の事例報告やパネルディスカッションでは、地域資源を活用したそれぞれの取組や森里川海の連携を考慮に入れた防災への取り組み方について意見交換を行い、団体の活動内容や今後の連携について重要性を認識する機会となった。



#### ① 四国環境パートナーシップ表彰の実施

- 多様な主体との連携により、環境教育の推進や次世代の人材育成を目的とした「ESD 環境教育部門」、地域における環境や経済、社会の課題解決に資する地域循環共生圏の考え方を通して、SDGs の実現につながる取組を目指す「地域課題解決部門」2 部門をテーマにチラシを作成し、NPO や学校、企業等、約 1,000 団体へ送付し、応募を呼びかけた。
- 優秀な連携事業や取組を選考するための審査委員会を設置し、大賞1件、優秀賞 5 件を選定した。
- 第 5 回四国環境パートナーシップ表彰式

開催日: 2020年3月7日(土)

場所: こうち男女共同参画センターソレ(高知県高知市)と四国 EPO、エコみらいとくしま(徳島県徳島市)のテレビ会議接続

主催: 四国 EPO

共催: 四国 ESD センター、環境省中国四国地方環境事務所四国事務所

出席者: 13 名

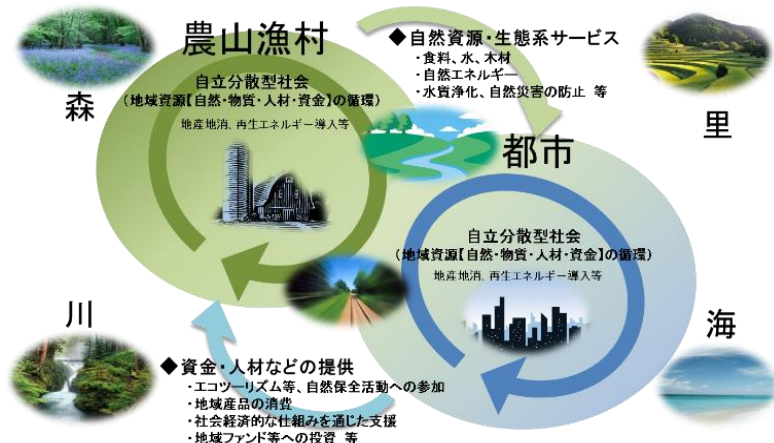
内容: 「ESD 環境教育部門」「地域課題解決部門」を受賞した計 6 団体を対象とした表彰式を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 会場を開設し、テレビ会議システムを活用した運用となったが、表彰状を本会場で読み上げ、各会場で授与、各会場からの事例発表を中継でつなぐなど、それぞれの会場で完結するのではなく、一つの式となるように運営することができた。また、同じ会場にいた団体同士が意気投合し、今後連携する事例もあった。交流会を中止としたため、付箋で得たコメントをとりまとめ、後日各団体に還元した。



## 2. 地域循環共生圏構築推進四国地域ブロック会議設立支援事業

### 【第5次環境基本計画の具現化に向けた取組】

- 2018年4月に閣議決定された「第5次環境基本計画」に掲げられた、地域循環共生圏(より広域的なネットワークにより新たなバリューチェーンを創出し、都市も中山間地も活かす資源循環の輪)の四国地域での構築を目指した、ブロック会議設立支援業務を、昨年度から継続し、環境省から受託し実施した。



- 四国各県に協働団体をおき、各県の情報収集や会議の開催、課題整理を連携し実施した。  
徳島県:生物多様性とくしま会議  
香川県:ナチュラリストネットワークかがわ  
愛媛県:(特活)森からつづく道  
高知県:高知生物多様性ネットワーク
- 地域循環共生圏構築推進に係る自治体・活動団体等の情報収集  
昨年度に続いて、各県の協働団体と、四国4県の行政・有識者・企業・金融機関・NPO等からヒアリング先を検討し、協働団体と共にヒアリングを実施した。内容は、地域循環共生圏のコンセプトに合致する取組事例や成功事例のノウハウ、地域支援の取組事例等について情報収集した。実施者が変わることによる情報のばらつきを極力少なくするため、仕様書の内容を基にヒアリングシートを作成し、それを用いて実施した。
- 第1回四国地域ブロック会議設立準備会議の開催  
開催日:2019年8月29日(木)  
場所:情報通信交流館 e-とびあ・かがわ BB スクエア(香川県高松市)  
参加者:77名(行政・地方自治体職員、活動団体、有識者、企業、金融機関、協働団体、関係者等)  
内容:環境省が、21世紀金融行動原則預金・貸出・リース業務ワーキンググループとの共催により全国で開催した、ESG地域金融のあり方セミナーと連携し、2部構成で開催した。第1部で四国地域にある地域資源を活用した資源循環の仕組みづくりに向けて、金融分野で広がり始めた ESG 融資と地域循環共生圏について講師の方にご講演いただいた後、第2部では四国地域にある資源を活かし循環させるための仕組みづくりについて、意見交換を行った。意見交換では、5つの個別検討テーマに分かれて、課題の整理や解決策について議論を行い、その内容を発表、全体で共有した。



#### 個別検討テーマ

- 地域創造ファンドによる支援のノウハウ
- 森・里・川・海の恵みを活かした生業づくり
- 環境に配慮した地域製品の市場の創出
- 自然資源を活かした観光による交流拡大
- 地産地消型再生可能エネルギーの導入



- 持続可能な商品開発のための研修会の開催

開催日:2019年11月20日(水)

場 所:こうち男女共同参画センター「ソーレ」(高知県高知市)

参 加:28名(行政・地方自治体職員、活動団体、企業、協働団体、関係者等)

内 容:地域循環共生圏構築に資する商品やサービスを創出し、持続可能な地域循環共生圏づくりに活用できるようなアイデアの創出と仕組みづくりに関する知見やノウハウ、情報を得ることを目的に、企業、金融機関、NPO、教育機関、有識者、行政等を中心とした関係者を対象とした研修会を開催した。講演を行った後、高知県内の3団体から事例発表を行った。その後、「地域のモノづくりを考える」～持続可能な商品開発の課題に対するアイデアや出口を考える～をテーマに、ワークショップを行った。ワークショップでは、グループに分かれて、参加者同士で自己紹介を行いながら、いいと思った点や取組のアイデア、新たなつながりづくり等について議論を行い、その内容を全体で共有した。



- 地域循環共生圏構築にむけた地域フォーラムの開催

開催日:2019年12月15日(日)

場 所:松山市男女共同参画推進センターコムズ(愛媛県松山市)

参 加:100名(行政・地方自治体職員、活動団体、企業、一般、協働団体、関係者等)

内 容:四国地域ブロック会議の活動内容及び活動方針を公の場で発表し、広く周知を行うことを目的に、地域フォーラムを開催した。環境省から地域循環共生圏の概念を紹介するとともに、各分野で取り組まれている方を講師に、地域循環共生圏の構築につながる動きの事例発表をいただいた。その後、登壇者を中心としたパネルディスカッションを行い、四国地域の可能性と実現のために必要な仕組み等について意見交換を行った。



- 第2回四国地域ブロック会議設立準備会議の開催

開催日:2020年1月29日(木)

場 所:エコみらいとくしま(徳島県徳島市)

参 加:31名(行政・地方自治体職員、活動団体、有識者、企業、金融機関、協働団体、関係者等)

内 容:四国地域にある地域資源を活用した資源循環の仕組みづくりに向けて、地域循環共生圏の構築につながる事例発表をいただいた後、今年度のヒアリング報告と総括を協働団体から行った。その後、持続可能な四国の実現を目指した四国地域ブロック会議設立(令和2年度予定)に向けて、本ブロック会議で目指す目標(ビジョン)と、ビジョン実現に向けて本ブロック会議の機能として必要なこと等の意見交換を参加者全員で行った。合わせて、各参加者の来年度の事業計画とブロック会議との連携等について情報交換を行った。意見交換では、参加者の属性が偏らないようにグループ分けを行った後、四国地域ブロック会議の説明を行った。四国地域ブロック会議についての質疑を行った後、ファシリテーターが進行し参加者全員で、四国地域ブロック会議で実現したいことや意見交換を行い、四国地域ブロック会議で目指す方向性の検討を行った。



### 3. 日本NPOセンター委託・Green Gift 地球元気プログラム

- 東京海上日動火災保険(株)が実施するグリーンギフト支援事業として、四国内のNPO 2団体(愛媛県西予市の特定非営利活動法人どんぐり王国、香川県高松市の特定非営利活動法人アーキペラゴ)が実施する環境活動イベントの実施を2019年9月まで支援した。

- Green Gift 触・植・食(ふれる・そだてる・あじわう) 3しょくプロジェクト～環境保全・共生・食育～ビオトープを作って身近な自然環境を見守ろう

開催日:2019年7月28日(日)

場 所:どんぐり王国第2農場(愛媛県西予市)

主 催:(特活)どんぐり王国

共 催:(認定特活)日本NPOセンター

協 力:四国EPO

協 賛:東京海上日動火災保険(株)

後 援:環境省

出席者:28名

内 容:参加者と一緒にビオトープを作りながら、子どもたちが直に自然とふれ合うことで生態系を学び、生物と環境のつながりを知るきっかけとなる体験学習をグリーンギフト事業として開催した。参加した子どもたちからは生きものとの触れ合いに関する感想やプログラムの振り返りとして主催側からは子どもと大人のペアリングの試みの成果などが語られ、有意義な3年間の企画であったことなどが共有された。



- GreenGift アートと自然と暮らしを感じる1日!瀬戸芸で大人気の豊島を体験!

開催日:2019年9月7日(土)

場 所:豊島(香川県土庄町)

主 催:(特活)アーキペラゴ

共 催:(認定特活)日本NPOセンター

協 力:四国EPO

参加者:40名

内 容:産業廃棄物処理施設跡地をバス車内から見学後、こころの資料館に移動した。産業廃棄物を掘り出した壁面展示をはじめ、不法投棄されたごみやきれいな島を取り戻すために何年も闘った島民の写真や展示を見ながら豊島事件の始まりと歴史について、説明を受けた。島の住民を招き、昼食をともにした交流会では自然や資源を活用した暮らしや歴史、仕事のことなどを聞き、実際の生活について理解を深めることができた。その後、唐櫃(からと)地区の散策や、移住したアーティストのパフォーマンスなど、過去と現在を交えた豊島を体験・体感する機会となった。高波の影響で船が揺れ、往路は予定以上の移動時間を有したが、現地の協力者との連絡調整などを経てスケジュールを適宜変更し、無事にイベントを終えることができた。



- 2019年10月からは、徳島県でGreen Gift 支援を行うことが決定し、支店との意見交換を経て、(一社)かみかつ里山倶楽部が企画運営を担うこととなり、実施する事業の支援を行った。

- GreenGift 高丸山のタネ探しとリースづくり～広葉樹を増やそう①～

開催日:2019年11月30日(土)

場 所:千年の森ふれあい館、高丸山(徳島県上勝町)

主 催:(一社)かみかつ里山倶楽部

共 催:(認定特活)日本NPOセンター 協 力:四国EPO、徳島県森林づくりリーダーの会

協 賛:東京海上日動火災保険(株)

後 援:環境省

参加者:19名





内容: 千年の森ふれあい館駐車場で、タネを探す練習をした後、高丸山へ移動し、タネ探しを行った。スタッフから、ススキは小さなタネが集まっているという説明や、花の写真を見ながらアザミのタネの観察等を行った。食用の木の実の味見をしたり、棘がある植物が多いことを体感した。ふれあい館に戻った後、スタッフからタネの生き残り戦略について説明があり、実験を交えながら形の意味を理解した。森林づくりリーダーから、木の实を使ったリースやクリスマスツリーづくりの説明があり、思い思いにデコレーションして持ち帰った。参加者からは、米も小麦もタネだということや、山で食べた木の実がリンゴのような味がするのは同じバラ科だからということを知ること、タネに暮らしが支えられていることや自然の木々が身近にあるものと同じであるという気づきがあった。

#### 4. 地球環境基金助成金説明会の開催

- SDGs セミナー・令和二年度地球環境基金助成金説明会

開催日: 2019年10月24日(木)

会場: 四国 EPO と徳島、愛媛、高知サテライトデスクのテレビ会議接続

参加者: 約 50 名

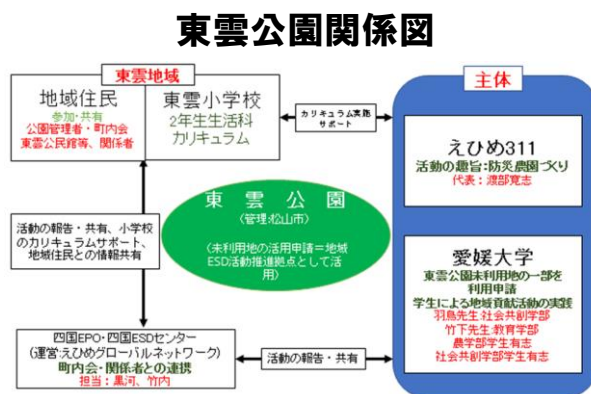
内容: SDGs セミナーとあわせて助成金の案内と要望書の書き方勉強会を実施した。香川県をメイン会場、徳島、愛媛、高知会場をサテライト会場としたことから各県関心がある方が参加できるものとなった。NGO/NPO 職員と団体職員が約半数を占めた一方、公務員や自営業、会社員など多様な主体の参加があった。説明会を知ったきっかけとしては、ポスターやチラシ、ホームページなどが多かった。SDGs セミナーを同時開催することで、幅広い団体の参加につながり、個別相談についても対応することができた。



#### コラム 東雲公園ESD活動

##### 活動概要

- 松山市に位置する東雲公園に隣接する未利用地を、愛媛大学、NPO 法人えひめ 311、NPO 法人えひめグローバルネットワーク等が連携し地域農園(コミュニティファーム)として平成 25 年より活用している。
- 今年度は、東雲小学校 2 年生を対象とした環境学習を実施した。
- サツマイモの苗植え  
開催日: 2019年6月12日(水)  
対象: 松山市立東雲小学校 2 年生  
実施: (特非)えひめ 311、愛媛大学社会共創学部学生、NPO 法人森からつづく道  
内容: サツマイモクイズや生き物探しなどを公園内で体験しながら苗植えを行った。
- 除草作業体験  
開催日: 2019年9月18日(金)  
実施: NPO 森からつづく道、愛媛大学農学部学生  
内容: 生き物観察や防災・災害支援のおはなしを聞き、除草作業を体験した。
- サツマイモ収穫  
開催日: 2019年11月2日(金)  
実施: (特非)えひめ 311、NPO 森からつづく道、愛媛大学農学部学生、社会共創学部学生  
内容: サツマイモブクトークや季節ごとの環境変化を観察し、サツマイモの収穫を行った。



## III. 教育・ネットワーク事業

### 1. 四国地方 ESD 活動支援センター(四国 ESD センター)関係業務

#### ① ESD 活動を支援する情報共有機能

- 四国地方における ESD 推進の取組を強化・支援するため、各地でのあらゆる機会を捉え、ESD 活動に関する国内外の情報等の収集及び発信を行った。SDGs 経営による企業価値向上に関する情報や ESD 関連の表彰、国際協力のイベントや消費者教育研修など、分野を問わず広く収集した ESD 情報は WEB サイトのコンテンツ、SNS 等で発信し、共有した。
- 四国 ESD センターホームページには 74 件の記事掲載、SNS では 15 件の情報発信、メールマガジンは月 1 回配信し、毎月 SDGs の紹介とあわせて記事作成を行った。フェイスブックについては四国 EPO のページに月 1 回の頻度でレポートを掲載する形で情報提供を行い、情報(リソース)センターとしての機能を強化することで、必要な人に必要なタイミングで情報を届けることが出来るような体制を整えた。
- 他に NHK のラジオ放送や西日本放送ラジオ番組への出演、教育新聞への情報提供を通じて、四国内外へ広く発信を行った。



#### ② ESD 活動に関するネットワークの構築

- 地域 ESD 拠点交流会の開催  
開催日: 2019 年 11 月 6 日(土)  
場 所: 新居浜テレコムプラザ(愛媛県新居浜市)  
主 催: 四国 ESD センター、中国四国地方環境事務所四国事務所  
内 容: 開会挨拶の後、事務局より地域 ESD 拠点の現在の状況について説明を行い、各拠点の取り組み紹介、意見交換を行った。地域 ESD 推進拠点は個別登録のため、同じ四国にいてもお互いの活動を知る機会がこれまでなかったことから、今回の交流会が顔合わせの場となり、今後の連携の可能性が生まれたことに参加者からもよい評価をもらうことができた。
- おかやま環境教育ミーティングへ出展、出席し、オリエンテーションで今回の目的などを確認した後、それぞれが希望するワークショップに参加した。分科会「ファッションを通して見る世界」では、コットンの栽培や染色など衣料製造の過程で環境や人権問題が生じていることを知り、SDGs のどの分野でできることを考えるなど、新たなワークショップの手法を得ることができた。中高生の主体的な参加が見受けられ、中国地方における環境教育の関心の高さを確認した。
- 地域 ESD 拠点の登録の推進等  
可能性のある企業、団体を訪問し、丁寧な説明を行うことで地域 ESD 拠点への理解を深めてもらうことができた。今年度は(株)平野 平野薬局(愛媛)、(特活)えひめグローバルネットワーク(愛媛)、うどんまるごと循環プロジェクト(香川)の登録が完了した。全国各地での登録が進んでおり、四国は昨年度までに登録の新居浜市教育委員会(愛媛)、高松ユネスコ協会(香川)、IKEUCHIORGANIC(株)(愛媛)、(株)ハレルヤ(徳島)、(株)土佐山田ショッピングセンター(高知)、室戸ジオパーク推進協議会(高知)と合わせて 9 件の登録数となった。四国は民間企業や教育委員会など、多様な主体からの登録があり、拠点連携の可能性について、注目されている。





徳島(1)	(株)ハレルヤ
香川(2)	高松ユネスコ協会、うどんまるごと循環プロジェクト
愛媛(4)	新居浜市教育委員会、IKEUCHIORGANIC(株)、(株)平野 平野薬局、(特活)えひめグローバルネットワーク
高知(2)	(株)土佐山田ショッピングセンター、室戸ジオパーク推進協議会(高知)

• 教育機関との連携

地域 ESD 拠点を含む教育機関等と以下のような連携を行うことで、関係性を深めることができた。

	連携・協力関係先	連携内容	催事名等	開催日・場所
徳島	徳島県教育委員会	ESD センター事業の企画説明と、県内高校への案内協力依頼。	訪問	・6月18日(火) ・徳島県教育委員会
	徳島県立城西高等学校	ESD センター事業の企画説明と、参加の案内。	訪問	・7月2日(火) ・徳島県立城西高等学校
	徳島県教育委員会	後援。資料展示コーナーにおいて四国 EPO と四国 ESD センターのパンフレットや冊子を配布	エンカル甲子園 2019 ～私たちが創る持続可能な社会～	・12月27日(金) ・徳島グランヴィリオホテル
香川	香川県教育委員会	ESD センターの設立経緯や現在の活動内容について説明を行い、連携の可能性について意見交換。	意見交換	・4月23日(火) ・香川県教育委員会
	香川大学	ESD や SDGs についての講義。	講義	・6月27日(木) ・香川大学幸町キャンパス
	高松中央高等学校	SDGs の概要と実践について教材としての活用例等を交えながら説明。	現職研修～SDGs について～	・10月21日(月) ・高松中央高等学校
愛媛	新居浜市教育委員会	事業共催。	新居浜 SDGs アートフェスティバル	・公募期間 4月1日(月)～6月30日(日) ・あかがねミュージアム
	松山市立新玉小学校	ESD 取り組みに関する方針やモザンビークオリンピック委員会来松に関する情報提供。	意見交換	・6月10日(月) ・松山市立新玉小学校
	松山市立清水小学校	環境学習に関する情報提供と意見交換。	意見交換	・6月19日(水) ・松山市立清水小学校
	新居浜市教育委員会	今年度事業についての意見交換。	令和元年度第1回ESD推進事業協議会	・7月16日(火) ・新居浜市教育委員会
	新居浜市教育委員会	活動内容についての意見交換	令和元年度第2回ESD推進事業協議会	・11月27日(水) ・新居浜市教育委員会
	宇和島市教育委員会	助成金の活用について、市の教育行政・学校との連携を視野にどのような活動ができるか意見交換	意見交換	・11月18日(月) ・宇和島市役所
	日本 ESD 学会	日本 ESD 学会関係者や教員などの教育関係者、高校生、大学生といった ESD 実践者が意見交換する場に参加。センターの紹介や情報提供。	ESD 研修交流会(兼: 日本 ESD 学会第1回四国地方研究会)	・1月25日(土) ・松山市教育研修センター

	愛媛県立松山南高等学校	愛媛県内の9校から生徒と教諭が集まりSDGsについて議論する場に講師として参加し助言。	えひめ高校生 SDGs ミーティング	・2月9日(日) ・愛媛県立松山南高等学校
高知	高知県立伊野商業高等学校	エシカルについて学ぶ課外授業に同行、環境や社会との関連について情報提供。	高校生のエシカル体験活動	・7月16日(火) ・サニーアクシスの店
四国	阿南工業高等専門学校、徳島文理高等学校、徳島科学技術高等学校、香川大学学生 ESD プロジェクト Steep、愛媛県立北宇和高等学校、高知県立西高等学校	主催。各県の高校生や大学生の活動成果発表を通じて交流を図ると共に、SDGs についての意見交換。	ユース等取組交流会	・8月22日(木) ・とくぎんトモニプラザ
	阿南工業高等専門学校、徳島文理高等学校、徳島科学技術高等学校、香川大学学生 ESD プロジェクト Steep、愛媛県立北宇和高等学校、高知県立西高等学校	ユース等取組交流会での活動発表内容をパネルにし、展示。また参加について情報提供。	食品ロス削減全国大会 in 徳島	・10月30日(水) ・徳島グランヴィリオホテル

### ① ESD 活動に関する相談・支援窓口

- SDGs や ESD に関係する企画展開の相談やコミュニティセンターでの取り組み、海外との交流や講師派遣など、昨年度に引き続き多様な分野での事業展開や推進に関する相談があり、取り組みアイデアや連携先の紹介等を通じて支援を行った。また、教員や組織の研修における ESD、SDGs の取り入れ方や、ESD 関連イベントの広報依頼など広く ESD 活動に関する相談・支援窓口としての機能を果たし、必要に応じて適切な情報提供を行った。
- 相談対応事例：
  - 社会教育施設より、企画の広報について相談があったため、新聞記者と情報共有したところ誌面への掲載が可能となった。
  - ラジオ局より、子ども向けの ESD や環境活動情報を提供するためのテーマについて相談を受け、情報提供とともに SDGs に関連させてはどうかという提案も行った。
  - 食の ESD 授業の一環として、「食と世界とのつながり」を学ぶ授業の講師を紹介してほしいという相談を受け、人材紹介を行った。
  - 海外と高知の学校を WEB でつないで交流するために機関を紹介してほしいという相談を受け、適切な情報を提供した。
- 全国ESD活動支援センター(東京)と連携し、四国にとどまらず日本全国・世界での情報を元に相談・支援に関する窓口対応を行った。



### ② 人材育成

- ユース世代等取組交流会の開催  
開催日:2019年8月22日(木)  
場所:とくぎんトモニプラザ(徳島県徳島市)  
主催:環境省中国四国地方環境事務所四国事務所、徳島県、四国 ESD センター





内容:ユースと ESD 拠点、ESD センターから取組紹介を行った。ユースの発表には付箋にコメントやアドバイスを書いてもらい、今後の取組内容を考えるワークショップ時に参考にもらった。食品ロス削減という共通のテーマで集まったため、それぞれの取組内容やアドバイスを参考に、取り組みの見直しや今後の展開についての議論が進んだ。NHK と徳島新聞の取材があり、当日夕方の NHK のニュースで放映された。後日、参加者から食品ロス削減全国大会への出場問合せがあり、今回の交流会を通じてユース世代の意欲を高め、今後につながるサポートを行うことができた。



- 徳島文理高等学校:ユース等取組交流会に参加し、発表したことが生徒の意欲向上につながり、食品ロス削減全国大会 in 徳島(10/30)での展示や第 5 回全国ユース環境活動発表大会(四国地方大会・12/18)への参加に発展、受賞につながった。
- 高知県立高知西高等学校:ユース等取組交流会に参加し、発表したことが生徒の意欲向上につながり、食品ロス削減全国大会 in 徳島(10/30)への参加やその後校内の学食で調査・実験を行うなど発展的な展開につながった。

- 上記交流会参加各校の活動発表内容をパネルにし、食品ロス削減全国大会 in 徳島(10/30)で展示を行った。



### ③ その他(ESD 活動に関するネットワークの構築とその周知)

- 四国地方の ESD 活動実践者・実践団体等の活動情報の共有をめざし、昨年度に引き続き自治体や教育委員会等の ESD 関係者を訪問し、四国 ESD センターについての説明を行った。ESD に関する認知度が上がっており、取り組みを地域で推進するニーズがあることを確認した。さまざまな資源をつなぐ機能を担う ESD センターに対して、関係者から多くの期待が寄せられ、役割を果たすセンターとして今後も拡充していく必要があることを認識した。
- 8 月に開催したユース等取組交流会の各校の発表内容を取りまとめ、食品ロス削減全国大会 in 徳島において四国 EPO、四国 ESD センターのパネルとともに展示し、パンフレットや季刊誌の配布も行った。当日の様子は、NHK 徳島のニュースで取り上げられた。全国の自治体や企業と、県内の大学や高校などがパネル展示やブース出展を行っており、各団体の取組について情報収集を行った。
- 新居浜市教育委員会において ESD 推進事業協議会に参加、事業についての意見交換を行った。教材や全国の動向に関係する資料提供を行い、その内容を説明した。意見交換では、ESD 推進拠点間連携や ESD を取り入れた修学旅行ニーズがあることなどを紹介した所、意見や提案が得られ、新居浜市や関係主体と四国 EPO や ESD センターの連携に役立つ情報収集が進んだ。
- 「ESD for SDGs」ワークショップ意見交換会において、キャリア教育、国際理解教育、環境教育、人権、平和学習など、これまで四国の ESD 推進に関わってきた経験を有する関係者が集まり「ESD for SDGs」に貢献するためのワークショップを開催した。これまでの ESD の取り組みについての評価方法や研修プログラムの開発、実践・情報の一元化と共有の仕組みづくりなどについて、意見交換を行った。また、2020 年 1 月 25 日に開催される日本 ESD 学会第 1 回四国地方研究会において本ワークショップでの成果を発表・共有し、松山市の SDGs 推進、クリア事業の充実と ESD 教材開発等につなげ、連携・協働を進めていくことを確認した。
- ESD 活動支援センター(全国・地方)連絡会に出席した。各地の ESD 支援活動状況の共有をし、ESD 活動推進拠点への対応や協力組織との連携等について意見交換を行った。

- ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 への参加  
開催日: 2019 年 12 月 20 日(金)  
場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)  
主催: ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省  
参加者: 約 400 名  
内容: 「ESD for 2030」に向けて、取り組むべきことについて意見交換、情報共有を行うことができた。初日のパネルディスカッションに四国地域 ESD 活動推進拠点の IKEUCHI ORGANIC の池内代表が登壇した。企業としての ESD への取り組みについて事例を紹介し、参加者の関心を集めた。2 日目は 5 つの分科会に分かれて、2030 年の SDGs 達成に向けた課題解決のための取り組みについて、意見交換を行い、参加者は ESD への理解・関心を深めることができた。



## ESD-J との協働評価事業・ESDラボとの協働について

- ESD-J との協働評価事業で、これまでの活動をまとめ評価する作業を進めた。とりまとめ内容は以下のとおり、2020 年 6 月をめどに報告書が提出される予定である。

- 事業の目的
- EGN の活動の 3 本柱と目的
- EGN が定義する「ESD」とは
- 作業の方向性
- ステークホルダー
- 実施概要
  - ① 松モ年表のアップデート
  - ② 松山市 ESD コーディネーター派遣制度の実績要旨の作成
  - ③ 「地球市民教育・持続可能な開発のための教育(ESD)普及活動」のまとめ
  - ④ EGN のモザンビーク事業の支援地域の選定の経緯
  - ⑤ 現在のモザンビーク支援事業とパートナー団体 CCM のプロジェクト評価
  - ⑥ EGN のモザンビーク事業が長年継続してきた理由
- ESD 評価について
- まとめ
- 資料
  - 【資料 1】松山市民のつながり EGN 年表
  - 【資料 2】松山市 ESD コーディネーター派遣制度の実績要旨
  - 【資料 3】地球市民教育・持続可能な開発のための教育(ESD)普及活動
  - 【資料 4】四国における ESD 取組みと推進に関する流れ(EGN 関連事業からの整理)他

- ESD 研修交流会(兼: 日本 ESD 学会第 1 回四国地方研究会)  
愛媛大学・ESDラボが中心となり進めてきたこれまでの取り組み成果等を発表した。本会は、2019~2022 年度 JSPS 科研費の助成を受け実施されており、日本 ESD 学会との共催や愛媛県内の教育委員会、ESD 活動支援センター、四国 ESD センター等の後援を受け、盛大に開催された。





当団体としては、代表の竹内が、第2部、NPO/NGOの立場からの実践報告を行った後、第3部では、「ESDの学びの広がり 学習者/指導者/支援者の成長と変容～モザンビークとの関わりを軸にした取組を例として～」と題し、教員や大学生、高校生からの事例提供を組み合わせたワークショップを開催した。参加者は、学会関係者はもとより、大学、小中高校教員、学生、ESDに関心のある方等、幅広く参加があり、多様な議論を展開することができた。

この活動は、来年度も継続となっており、ESDラボから四国、全国に向けて取り組みを発信する好機となることが期待される。

### ● トピック:モザンビーク大学との相互交流

開催日:2019年12月10日(火)

場 所:愛媛大学(愛媛県松山市)

主 催:愛媛大学

参加者:約15名

内 容:外務省の紹介で来日したウワシェ氏の緊急講演会が開催され、「Mozambican Daily Life」をテーマにモザンビークの文化や生活等に関して、画像や映像を交えて紹介があった。当日は、留学生や学生も多く参加し、直前の案内にも関わらず関心の高さを伺うことができた。

開催日:2020年2月7日(金)

場 所:ジョアキン・シサノ大学(Universidade Joaquim Chissano)

内 容:ウアシェ教授の大学で講義をすることとなり、以下をテーマに竹内が講演を行った。

“Mozambique-Japan Relations from NGO aspects”

- 1) Introduction of Ehime, Japan
- 2) Ehime Global Network activities for 20 years with CCM:  
Christian Council of Mozambique
- 3) Towards our common future for SDGs



テーマ「ESD/SDGで実現する深い学び」  
ESD研修交流会  
(兼:日本ESD学会第1回四国地方研究会)

日時・場所  
令和2年(2020年)  
1月25日(土)  
12:45~17:00  
(受付12:00~)

松山市教育研修センター  
事務所【大講義室】  
(松山市文京町2-1)

2020年度から順次全面実施される学習指導要領。その基礎となる理念として承認されたのは「持続可能な社会の創り手」の育成。その実現のために大きな役割を担うのはESD/SDGです。  
ESDってどんな学び?何をすればいいの?何をESDとしてSDGって?そんな素朴な疑問もすっきり解決!この機会をお見逃しなく!  
ESD/SDGに関心のある方ならどなたでも参加できます!  
プログラムの詳細、申込み先、問合せ先は裏面をご覧ください!

主催:日本ESD学会、日本ESD学会四国地方研究会実行委員会  
後援:愛媛大学教職大学院、愛媛大学ESD課  
協賛:愛媛大学教育学部、松山大学教育委員会  
協賛:愛媛大学、愛媛県教育委員会、松山大学教育委員会、  
四国地方教育委員会、愛媛大学教育委員会、高松市教育委員会、  
徳島市教育委員会、上島町教育委員会、愛媛県教育委員会、  
松山大学教育委員会、宇治市教育委員会、松山大学教育委員会、  
宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、  
宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、  
宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、  
宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、  
宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、宇治市教育委員会、  
ESD活動支援センター、四国地方ESD活動支援センター

科研費  
本会は、2019-2022年度 ESDF 特別研究(180221)「基礎研究」(C)「国際行動変容を促すための実践的ESD/SDGの国際研究」(研究代表者: 竹内一弘)の助成費執行業務を行います。

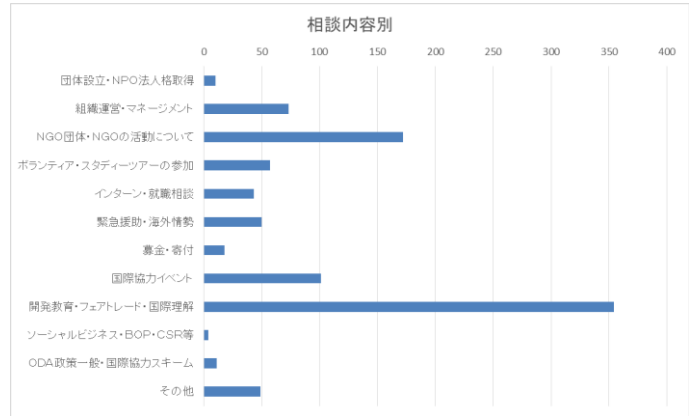
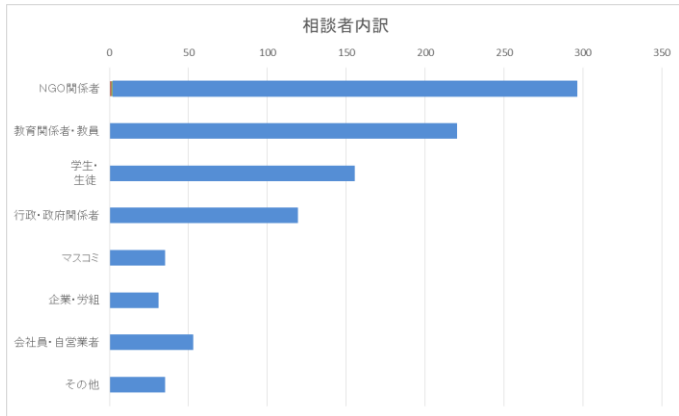


## 2. 外務省 NGO 相談員業務

- 外務省の委託業務として、2019年4月1日より2020年3月31日まで、外務省 NGO 相談員として、月～金曜日の10時～17時まで、竹内よし子(正)と菅未帆(副)の2名および、補助スタッフにより相談業務を行った。

### ① 照合・相談対応

- 2019年度の相談対応合計数は、942件(月平均約78.5件)であった。



### ② 出張サービス

- 地域の NGO、JICA 四国、教育機関、地方自治体、地域国際センター、四国地方 ESD 活動支援センター等との連携を深めながら、四国内の国際協力関係イベント等への出展、国際協力や NGO 活動に関する講演・セミナー・ワークショップの実施のための出張サービスを、各県 2 回以上企画し実施した。

今年度実施した出張サービスは以下の通り。

No.	エリア	実施日	出張サービス企画名	実施形態	開催場所
1	徳島県	5月13日	徳島県立城北高等学校	講演、相談対応サービス	徳島県立城北高等学校
2	徳島県	6月14日	ESD 講演会(徳島県立富岡東中学校・高等学校)	講演、相談対応サービス	徳島県立富岡東中学校・高等学校
3	香川県	6月17日	世界の子どもの人権(さぬきこどもの国)	講演、相談対応サービス	公益財団法人さぬきこどもの国
4	高知県	8月12日	青少年グローバルリーダー育成フォーラム	相談対応サービス	愛媛県立川之江高等学校
5	京都府	9月6日	OMEP(世界幼児教育・保育機構)日本委員会	ワークショップの実施	京都テルサ(京都市民総合交流プラザ)
6	東京都	9月29日	グローバルフェスタ JAPAN2019	相談対応サービス	お台場センタープロムナード
7	高知県	10月6日	国際ふれあい広場 2019	相談対応サービス、その他(情報発信)	ひろめ市場
8	香川県	10月14日	かがわ国際フェスタ 2019	相談対応サービス、その他(情報発信)	アイパル香川
9	愛媛県	11月24日	吉田公民館国際交流カフェ(ピースメーカーUWAJIMA)	相談対応サービス、その他(情報発信)	吉田公民館
10	香川県	11月26日	香川県立農業大学校	講演、相談対応サービス	香川県立農業大学校
11	愛媛県	1月19日	地球人まつり 2020	相談対応サービス、その他(情報発信)	松山市総合コミュニティセンター



### ③ 広報業務

- 広報では、①担当が出演する NHK ラジオ番組や新聞取材を通して、NGO 相談員制度、出張サービスの実施について PR した。②当団体事務所の展示スペースに、ポスター、チラシを提示することで、一般市民向けに常時広報を行うとともに、当団体主催イベント、参加協力イベント、講演、セミナー、ワークショップなどの訪問先でポスター提示し、チラシを配布した。③平成 27 年度作成「グローバル・ローカル」カルタを、出張サービスにおける相談ブース出展の際に展示・紹介、教育機関からの貸し出し依頼に応えることで、授業の一部で活用してもらうことができた。④SNS 広報では、当団体のホームページ、Facebook を利用して、相談員制度、出張サービス等業務、国際関連イベント情報、最新資料、紹介などに関する情報発信を行った。Facebook 月平均リーチ数は 1,500 件以上となり、今年度の毎月目標件数である 1,200 件を達成することができた。Facebook における情報発信の際、毎回、記事の最後に外務省 HP 内 NGO 相談員制度紹介ページのリンクを貼り、広報を行った。⑤NGO 相談員制度広報用チラシを河原学園と協働で作成し、下記の 4 作品のエントリーがあった。このうち、1 作品が、全国へ配布される外務省 2020 年度 NGO 相談員チラシに採用された。また、応募作品は、四国内での NGO 相談員制度の普及に活用することができた。



### ④ 他セクター(JICA および国際協力推進員、地方自治体、地域国際センター、教育機関、企業等)との連携強化

- 他セクターとの連携強化:①年 2 回、JICA 四国センター、国際協力推進員、四国内 NGO、教育関係者、企業等との情報共有を行い、SDGs 達成に向けた連携を図った。②愛媛県国際交流課、文化スポーツ振興課など、自治体関係者より国際交流事業、インバウンド(多文化共生)事業等に関する相談があり、今年度は愛媛県や各自治体と連携してプログラムを実施することができた。③四国地方 ESD 活動支援センターとの連携により、各県教育委員会、各県県庁所在地の教育委員会の義務教育課、高校教育課へ本制度に関する情報提供を行った。各県国際交流課、国際交流協会との連携を進めることを目的に、各県を訪問し、NGO 相談員制度について紹介するとともに、各機関の事業内容における連携の可能性について意見交換を行った。各県の取り組みについて情報収集し、ESD や SDGs と組み合わせることによる NGO との連携の可能性について提案する機会となった。



青少年グローバル育成フォーラム



グローバルフェスタでの相談対応

### 3. 講師派遣および持続可能な開発のための教育(ESD)普及・促進

- 総合的な学習の時間(国際理解教育・環境教育・平和教育・人権教育)の講師、あるいは、シンポジウム・セミナー等のパネリストとして、小・中・高校、大学、教員、その他(NPO、企業、行政等)からの派遣依頼に応じて、ニーズに合った講演・ワークショップ等を行った。
- 新居浜市教育委員会が主催する「ESD 推進協議会」において委員として協力し、各種研修・ワークショップへの助言を行うと同時に、新たなユース活動団体「新居浜グローバルネットワーク」の支援を行った。
- 松山市「平和の語り部」派遣事業、松山国際交流協会ESDコーディネーター派遣制度、愛媛県環境マイスター、自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザー派遣制度、外務省NGO相談員、内閣官房地域活性化伝道師等、さまざまな仕組み・制度を活用して実施した。

#### ① 2019年度公益財団法人松山国際交流協会「松山市 ESD コーディネーター派遣制度」

2019年度は、①松山市立北条小学校4回、②松山市立清水小学校3回、③新玉小学校3回、④松山市立味生第二小学校3回、⑤松山市立拓南中学校中1回、計5校の計14回、「松山市 ESD コーディネーター派遣制度」を活用した。それぞれ依頼先校からの要望に応えつつ、相談対応を行い、打ち合わせを重ねて授業を実施、また、具体的な資料の提供や紹介などのサポートを行い、ESDの視点を踏まえたコーディネートを実施した。今後もコーディネーター事業を通して連携を強めていきたい。

#### 2019年度講師派遣実績

月	日	曜日	名称	場所	主催	対象人数	担当者(EGN)
4	10	水	いきいきセカンドライフ講座「買い物から見える世界の目標SDGs～エシカル消費のすすめ～」	高知市文化プラザかるぼーと	高知市中央公民館	71	内田
	23	火	「平和の語り部」	立岩小学校	松山市	2	竹内
	25	木	西条高等学校	西条高校	西条高校	800	竹内
5	10	金	松山市環境ミニフォーラム	一般	松山市	25	黒河
	13	月	総合的な探求の時間	徳島県立城北高等学校	徳島県立城北高校	280	森、菅
	17	金	共通教育初年次科目「課題探究実践セミナー(国際協力入門)」	高知大学	高知大学	70	竹内
	23	木	東雲小学校2年生授業	EGN	東雲小学校	4	竹内、黒河、澤上
	26	日	中学生チャレンジプロジェクト	コムズ3階多目的室	まつやま国際交流センター(MIC)	30	竹内
	28	火	県立高校魅力化推進事業 出前講座	香川県立高松高等学校	香川県立高松高等学校	330	常川
	30	木	総合的な探求の時間	徳島県立城北高等学校	徳島県立城北高校	280	森
6	8	土	インターアクトクラブ会長・幹事研修会	四国中央市福祉会館	高松ロータリークラブ	185	竹内
	12	水	東雲小学校	東雲公園コミュニティーファーム	東雲小学校	67	黒河、小松、渡辺
	14	金	ESD講演	徳島県立富岡東中学校、高等学校	徳島県立富岡東中学校、高等学校	900	森、菅
	14	金	清水小学校	清水小学校	清水小学校	78	竹内
	15	土	総会基調講演	ホテルアネシス瀬戸大橋	浜六番丁Sの会	25	常川



	17	月	高松市・さめきこどもの国	さめきこどもの国	さめきこどもの国	26	菅
	18	火	新玉小学校	新玉小学校	新玉小学校	370	竹内、小松、佐竹
	18	火	キャリア教育充実事業(プロを講師とした授業)	香川県立三木高等学校	香川県立三木高等学校	150	常川
	20	木	身の回りの環境問題	香川大学幸町キャンパス	香川大学経済学部古川尚幸教授	330	森
	27	木	世界一大きな授業	私立清和女子中高等学校	私立清和女子中高等学校	17	内田
	30	日	第4回環境フェア	高松市総合教育センター	高松市衛生組合連合会	200	常川
7	2	火	愛媛県地球温暖化防止活動推進員研修会・意見交換会	愛媛県温暖化防止活動推進センター	愛媛県温暖化防止活動推進センター	40	黒河
	16	火	令和元年度第1回ESD推進事業協議会	新居浜市市民文化センター	新居浜市教育委員会	20	竹内、常川
	18	木	新玉小学校	新玉小学校	新玉小学校	528	竹内、木村、小松
	25	木	探求の時間 フィールドワーク	エコみらいとくしま	徳島県立城北高校	6	森
	30	火	愛媛県国際リーダー研修会	愛媛県青少年交流センター	愛媛県教育委員会	68	小松
8	3	土	第39回早明浦湖水まつりシンポジウム	土佐町農村環境改善センター	(特非)れいほく活性化機構	100	常川
	6	火	徳島西ロータリークラブ例会	JRホテルクレメント徳島	徳島西ロータリークラブ	20	森
	9	金	探求の時間 フィールドワーク	エコみらいとくしま	徳島県立城北高校	3	森
	9	金	緑の少年団交流集会	えひめ森林公園	緑の少年団愛媛県連盟	17	黒河
	12	火	高知県 IYEO_青少年グローバルリーダー育成フォーラム	高知市文化プラザかるぼーと	高知県青年国際交流機構(高知県 IYEO)	120	菅
9	5	木	平和の語り部	北条小学校 南校舎1階会議室	松山市 市民参画まちづくり課	73	竹内
	6	金	OMEP(世界幼児教育・保育機構)日本委員会	京都テルサ	OMEP(世界幼児教育・保育機構)日本委員会	60	竹内
	8	日	西条市国際交流協会	西条市市民図書館	西条市国際交流協会	20	竹内
	9	月	SDGs について学んでみませんか講演会	愛媛県総合社会福祉会館	(公財)えひめ地域政策研究センター、愛媛県	40	常川
	12	木	平和の語り部	東雲小学校 多目的室	松山市 市民参画まちづくり課	68	竹内
	13	金	高松ロータリークラブ	JRホテルクレメント	高松ロータリークラブ	33	亀山
	13	金	東雲小(草取り)	東雲公園	東雲小2年生生活科授業	66	竹内、黒河、小松
	29	日	グローバルフェスタ	お台場 センタープロムナード	グローバルフェスタ JAPAN2019 実行委員会	80	竹内
	30	月	そこがもっと知りたい	鴨島公民館	鴨島公民館	10	森
10	3	木	令和元年度環境パートナーシップ研修	環境調査研修所	環境調査研修所	39	常川
	6	日	「国際ふれあい広場2019」出展	ひろめ市場よさこい広場	高知県国際交流協会	50	菅
	9	水	味生第二小学校	松山市立味生第二小学校	松山市立味生第二小学校	93	竹内
	9	水	NGO 研究会グループディスカッション	四国 EPO スカイブ接続	JOCA 青年海外協力協会	10	常川

10	木	総合的な探求の時間	徳島県立 城北高等学校	徳島県立城北高校	280	森	
12	土	雄郡小学校	松山市立 雄郡小学校	松山市立雄郡小学校	800	竹内	
14	月	かがわ国際フェスタ 2019	アイパル香川	かがわ国際フェスタ実行委員会	100	菅、宇賀神	
21	月	現職研修	高松中央高等 学校	高松中央高等学校	70	常川	
25	金	平成31年度若手後継者等育成事業	日高酒蔵ホール	日高村商工会	34	竹内	
25	金	伊予農業高校	愛媛県立 伊予農業高校	伊予農業高校	100	小松	
26	土	第6回みちのく薪びと祭り in 青森 おおわに	わにもっこ 企業組合	EPO 東北	50	常川	
29	火	四国大学教養講座	四国大学	四国大学	30	常川	
30	水	第3回食品ロス削減全国大会 in 徳島	徳島グランヴィリ オホテル	徳島県、徳島市、おいしい 食べきりネットワーク協議会	600	森	
3	日	オリンピック・パラリンピック 交流会	MIC	愛媛県	60	竹内、小松、徳田	
4	月	清水小学校	清水小学校	清水小学校	89	竹内	
7	木	令和元年度愛媛県高等学校国際 教育研究協議会	愛媛県立新居浜 西高等学校	愛媛県立 新居浜西高等学校	80	竹内	
9	土	環境活動者向け 楽しく学ぶ！ SDGs 体験型セミナー	愛媛県男女共同 参画センター	愛媛県	40	森	
12	火	「地域循環共生圏」創造のための 意見交換会	岡山県農業 共済会館	中国四国地方環境事務所	34	常川	
13	水	SDGs 研修会	株式会社井上組	株式会社井上組	6	常川、森	
13	水	東雲小2年生授業	東雲公園	東雲小2年生生活科授業	66	黒河、小松	
14	木	清水小学校	清水小学校	清水小学校	65	竹内	
15	金	人権参観日人権講習会	愛媛大学教育学 部附属小学校	愛媛大学教育学部 附属小学校	200	竹内	
21	木	味生第二小学校	味生第二小学校	味生第二小学校	90	竹内、松本	
21	木	環境白書を読む会	エコみらいとくし ま	NPO 法人徳島環境 カウンセラー協議会	8	常川	
23	土	被災地経験共有プログラム	えひめ共済会館 豊明	ジョイセフ	31	竹内	
24	日	吉田公民館国際交流カフェ	吉田公民館	ピースメーカーUWAJIMA	30	小松	
25	月	2019年度ウエストグリーンネット 第54回例会	ダイオーエンジ ニアリング(株)、 大王製紙(株)	ダイオーエンジニアリング (株)、ウエストグリーンネッ ト	32	森	
26	火	香川県立農業大学校	香川県立農業大 学校	香川県立農業大学校	34	菅	
27	水	令和元年度第2回ESD推進事業 協議会	新居浜市役所	新居浜市教育委員会	16	竹内、常川	
28	木	北条小学校	北条小学校	北条小学校	60	竹内	
29	金	みなら特別支援学校	みなら特別支援 学校		270	竹内	
30	土	四国山の日	香川県青年 センター	四国の森づくりネットワーク 四国の森づくりin かがわ実 行委員会	40	宇賀神	
12	2	月	SDGs 研修会	神山バレー・サテ ライトオフィス・コ ンプレックス	徳島県自治研修センター	30	常川



	4	水	伊予農業高校	伊予農業高校	愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県高等学校国際教育協議会	100	小松
	9	月	新玉小学校	新玉小学校	新玉小学校	60	小松
	10	火	労働者福祉メーデー	わーくびあ徳島	徳島県労働者福祉協議会	70	森
	10	火	拓南中学校 国際理解講座「世界に羽ばたく先輩に学ぼう～モザンビークとつながる」	拓南中学校 柔剣道場		143	竹内
	12	木	総合的な探求の時間	徳島県立城北高等学校	徳島県立城北高校	280	森
	12	木	総合学習「やぎとエコ」	南国市立大篠小学校 4年1組		35	内田
	18	火	愛媛大学附属高等学校「伊豫学」	愛媛大学附属高等学校 4棟 4F 多目的学習室	愛媛大学附属高等学校	120	竹内
	23	月	「ESD for SDGs」ワークショップ意見交換会	EGN	四国地方 ESD 活動支援センター、EGN	13	竹内
1	24	金	岡山市環境保全研修	岡山市役所	岡山市 ESD 推進課	250	森
	30	木	北条小学校	北条小学校	北条小学校	60	竹内
2	13	木	教員研修	加茂名南小学校	加茂名南小学校	40	森
	13	木	地域循環共生圏金融 WG	GEOC	EPC	25	常川
	21	金	学校法人高知学園	高知学園	高知学園	400	竹内
	27	木	北条小学校	北条小学校	北条小学校	74	竹内
3	1	日	中学生チャレンジプロジェクト	コムズ	MIC	30	竹内
						10,849	88 件



徳島県立城北高等学校講演(5/13、徳島県徳島市)



環境白書を読む会(7/27、高知県高知市)



東雲公園コミュニティファームの草取り(9/13、愛媛県松山市)



かがわ国際フェスタでの展示(10/14、香川県高松市)

## 4. 多文化共生事業

### ① 愛媛県令和元年度 留学生等によるホームステイ実施事業 東予地区プログラム

開催日: 2019年9月27日～28日

場 所: 愛媛県今治市、新居浜市内各所

参加者: スタッフ2名、留学生6名(台湾、中国、ベトナム、モザンビーク、エチオピア等)、ホストファミリー6家族

内 容: ホームステイ体験を通して留学生等に地域を知ってもらい、県内各地の方々と顔の見える関係を構築するとともに、ホームステイを受け入れる県民側は留学生等の母国の事情や海外の風習・文化に触れながら、地域の実情や課題を外部からの訪問者と共有することにより、多文化共生社会の推進を図ることを目的に、愛媛県の委託により実施した。



あかがねミュージアム前にて記念撮影

参加者は、本プログラムに対し高い興味・関心を持って参加しており、自分が住む地域外となる新居浜市への訪問を通じて、ホームステイにより日本人の暮らしを学びたい、愛媛の自然・文化・歴史等を知りたいという意欲を持っていた。そのため、それぞれホームステイ先のホストファミリーとの交流も積極的に行っており、大変有意義で満足度が高い評価につながった。

前回は、アジアの国々からの参加者が多かったため、今年度は事業実施の際には、多文化共生づくりの視点から、アフリカ出身の方に参加してもらえるようヴィーガンの文化なども踏まえた準備や、ホームステイ先の理解を得ることで、食文化や宗教などの異文化の理解も深まるようにプログラムの質の向上に努めた。

ホームステイを受け入れたホストファミリーは、受け入れた外国人と家族の一員のように接し、親しくなっていた。ある参加者からは、「母国の紹介をした。自分の地元のことを知っている人はとても少なく、実際に話をすることでお互いに理解を深めることができた」というコメントがあり、本プログラムが多文化共生社会の実現を促進する一助になったことを感じる事ができた。また、愛媛県内でSDGsに取り組む企業への訪問、新居浜市中学生英語スピーチコンテスト、にはまSDGsアート・フェスティバルを見学し、持続可能な開発について、グローバルな視点で考えることができる機会となった。



SDGsアート・フェスティバル展示見学

### ② 実施スケジュール

日 程	事 項
1 日目	平野みらい薬局(今治市)訪問 新居浜市内見学 新居浜市立別子中学校のコンテストへの訪問・見学 * 学校の取り組みや、活動を見学、交流を行う。 * 新居浜市英語スピーチコンテストの見学 * ホストファミリーと対面 各家庭へ移動
2 日目	各ホストファミリーと交流 あかがねミュージアム施設見学へ * 新居浜太鼓祭について知る * SDGsアート展の見学(SDGs、ESDの取り組みについて学ぶ) * 意見交換



### ③ アンケート集計結果

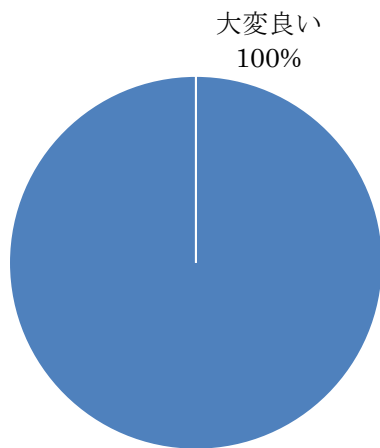
- 二日間のプログラムを通して、留学生から、「とても楽しかった」「みんな親切にしてくれてうれしかった」「新居浜にまた来たい！」といった嬉しいコメントをたくさん聞くことができた。各家庭での交流では、ボードゲームをしたり、畑で野菜を取ったり、母国のことを話して仲良くなったり、複数の家庭で一緒に食事に行くなど、家庭ごとに様々な交流メニューがあり、留学生が楽しめる工夫をしてくれていた。
- 留学生からも、ホストファミリーからも、「1泊2日は短すぎる」「もっと一緒に交流したかった」との意見が多く寄せられた。
- 本プログラム実施後、留学生とホストファミリーが連絡を取っていることや、一緒に食事に行ったことなど、ホームステイプログラム実施後も交流が続いていることが分かった。
- 当事業をきっかけに、新居浜市をはじめとした東予地域全体で国際交流、地域活性につながっていくことがのぞまれる。
- SNS の投稿について、各施設や見学するポイントで、こまめに投稿するように留学生に声をかけながらプログラムを進行したが、ゆっくりと記事を作成する時間までは確保することができなかったことが投稿数が少なくなった原因と考える。今後、同様のプログラムを計画する際には、SNS 投稿のための時間を取って、より多くの人にこのような取り組みを知ってもらえるように発信していくことが必要であると感じた。
- 高校を訪問した際に、一部の生徒から「留学生と英語でコミュニケーションがしたい」という要望があった。今回は日本語でコミュニケーションができることを前提に募集をしたため、アジア地域の参加者が多く、英語を母語とする留学生はいなかった。多くのニーズがある中で、すべてのニーズに応えることは難しいが、できるだけすべての参加者が満足できるプログラムが実現できるように考えていきたい。



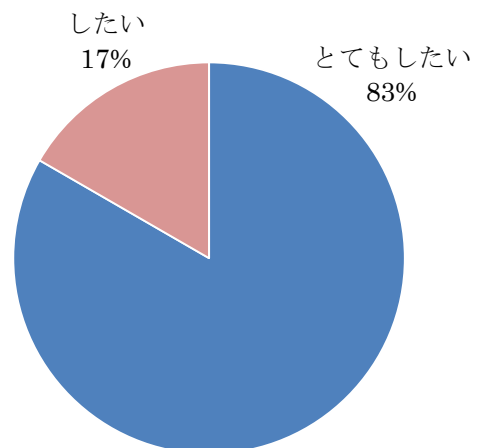
#### <留学生・研修生のアンケート集計>

留学生 5ヶ国(台湾 1名、中国 1名、ベトナム 2名、モザンビーク 1名、エチオピア 1名)、6名(男性 4名、女性 2名)

質問1: 今回のアレンジ(出発前からの連絡など) 全体の流れに関する感想



質問2: このようなプランがあれば参加したいか



## 5. 西日本豪雨災害・愛媛県での支援活動、三者連携推進関係業務

### ① 全国ボランティア活動支援団体ネットワーク(以下、JVOAD)助成事業実施

- 西日本豪雨災害支援活動がスムーズに行われるよう、愛媛県の災害対応担当者と「災害ボランティアセンター」や「地域支え合いセンター」を運営する愛媛県社会福祉協議会(以下、県社協)関係者、そして、県域の NPO 中間支援組織であるえひめリソースセンター(以下、ERC)をはじめとする NPO 等関係者の「三者連携」を推進し、体制が十分ではない ERC の基盤整備と共に 2019 年度からの 2 か年事業の中で、事務局的作用を担った。



牛鬼会議の様子

- 人材雇用・配置や、行政との調整など、いろいろ困難な局面はあったものの、中心的な役割を果たした U.Gramma 宇和島グランマの法人化、2019 年 7 月に「宇和島 NPO センター・キャリアッジ吉田バンズ」の開所による、中間支援の運営開始に至り、宇和島市内で被害が大きかった吉田町の被災者にとってよりどころとなる支援窓口が開かれたという意味で大きな一歩となった。八幡浜のみなっと交流館とともに、新たな「南予チーム」の一員として、南予地域の災害支援のハブ的な機能・役割を果たす中間支援組織間連携への基盤整備が進んだ。また、この宇和島市の動きは、今後の西予市や大洲市への動きにつながり、広げていくことが期待できる。

- 今後は、平時の活動の中に「防災」という視点を取り入れることについて、新しく発足した団体や災害支援を通してつながったネットワーク等との連携を通して、具体的な事業や活動を通じた、防災・減災社会づくりに向けた、持続可能な災害に強いまちづくりの実践が重要であり、予想される南海トラフ地震をはじめとする自然災害に備える地域づくりへ活かしたい。

### ② 南予で子どもを育てる 小野美智代氏 講演会 開催

- 開催日: 2019 年 9 月 8 日(日)  
場 所: パフィオうわじま生涯学習センター(愛媛県宇和島市)  
主 催: (特活)えひめグローバルネットワーク、(特活)えひめ 311
- ジョイセフの小野美智代氏の講演会とワークショップを行った。タイトルにある子育てについてだけでなく、災害をきっかけとしてジェンダーについて考える機会として開催。災害時に増える性被害や DV 等、取り上げられることがまだまだ少ない分野であり、女性を中心に講演会には約 15 名が参加した。参加者は、話を聞くだけでなく、被災時の経験を語り合うなど、有意義な開催となった。

## 南予地域で子どもを育てる

女性の立場やジェンダーの視点について、改めて考えるためのトーク企画  
— 西日本豪雨災害をきっかけに —

2018 年 7 月の西日本豪雨災害から 1 年、愛媛県南予地域では災害を契機に子育て支援活動が活発化し、ジェンダーの視点から社会を考える市民の意識が高まっています。こうした災害の経験や支援活動に携わった経験を経て、次のステップに進むためにどのようにすればよいか、地域に在りながら話し合いたいと思います。

遠くからの女性支援に関心のある NGO ジョイセフに依頼し、ジェンダーの視点や宇和島市の南予地域の母子支援活動にも関わった経験をもつ小野美智代氏を講師に迎え、講師とともにこれからの子育てやジェンダーの観点について考えましょう。お申し込みも歓迎します。お気軽にご参加ください。

2019

# 9 月 8 日

15:00~17:00

パフィオうわじま  
生涯学習センター 1 階練習室  
(愛媛県宇和島市橘島町 8 番 3 号)

対 象: 男女問わず子育て中の方、子育てに関心のある方(ジェンダー問題に關心がある方が 30 名程度)

参加無料  
託児あり

---

**小野 美智代 氏** (公益財団法人ジョイセフ 市民社会連携グループ長)

国際協力 NGO ジョイセフ市民社会連携 (CSP) グループ長。  
静岡県立大学非常勤講師。

前職の法政大学では、ジェンダーフォーラムの設立と運営に携わる。2003 年よりジョイセフの依頼に随従し、2011 年の東日本大震災以降は、被災女性が置かれた状況を広く伝え、被災地支援においてジェンダーの視点の重要性を呼びかける。被災地のなかからこの分野で日本にある男女格差や性による格差に関する課題と解決の提議を呼び、国内外で意識向上やアクションを協定するキャンペンを展開。日本を含めた世界中すべての女性が健康で、個々の能力を存分に発揮できる社会を目指して、現在は地方行政や法人と連携した取り組みや情報発信力を生かしている。静岡県出身。在住。プライベートでは職人 2 人と夫 (災害希望のため事業) の 4 人家族。

---

主 催 ● 特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク、特定非営利活動法人えひめリソースセンター  
協 力 ● 宇和島 NPO センター、ESD 活動支援センター、自衛隊 ESD 活動センター  
主催取組ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)、ジャパン・プラットフォーム(JPF)



- 開催後、参加者の中には、教育現場に取組みを広げていこうという動きを始めた方もおり、被災当事者や経験者が、社会課題解決に向けて活動を始めるきっかけとなる場を提供できた。
- 当団体としても、西日本豪雨災害支援を通じてつながりができたジョイセフのホワイトリボンラン愛媛拠点開催に名乗りを挙げ、平時から災害に備える体力づくりの普及啓発をしようと、2020年3月開催に向けて準備を進めたが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催中止となった。



ワークショップの様子

### ③ 協働のための勉強会・ワークショップ 開催

- 開催日: 2019年9月12日(木)  
場 所: 図書交流館まなびあん(愛媛県西予市)  
主 催: (特活)えひめグローバルネットワーク、(特活)えひめ311
- 当初は、宇和島 NPO センターの運営強化を念頭においての開催だったが、南予全体として中間支援組織に対する理解を深め、改めて協働を考え、災害を機に立ち上がった市民活動を継続していく流れに焦点を当てることとした。
- 平日にもかかわらず、南予の各市から行政、民間ともに約25名の参加があった。南予各地でさまざまな主体がどのような活動を展開していたかについて、3名の方からふりかえりと事例紹介をいただいた。続いて、基調講演では、平田裕之氏(一般社団法人コクリエーションデザイン代表理事)から協働促進のきっかけとなる投げかけや国内事例についての話題提供があった。その後、発災時から現在に至るまで、今後の協働を深化させるために、何ができるかの意見交換・ワークショップを行った。さまざまな地域事情に配慮しつつ、三者連携を進める必要性を再確認する機会となった。

### ④ プレーパーク企画への支援

- (特活)えひめリソースセンターと宇和島市の NPO 団体 If が協働して行う、プレーパーク事業が、三浦環境基金の助成金をうけることとなった。当団体として、備品調達やイベントの運営についてアドバイスをを行い、今年度の実施を支援した。



ワークショップの様子

## 6. 協働オフィス運営と中間支援機能強化について

2019年度は、当団体が運営する協働オフィス(松山市東一万町2第3森ビル1F)を、特定非営利活動法人えひめ311および特定非営利活動法人えひめリソースセンターとともに活用した。

2018年7月に発生した西日本豪雨災害支援については、えひめリソースセンターとともに「宇和島NPOセンター」立ち上げを支援し、2019年7月に被害が最も大きかった宇和島市吉田町で開所することができた。えひめリソースセンターの事務局サポートを行いつつ、具体的には「牛鬼会議」「えひめ会議」など情報共有会議への参加を通じて支援活動を行い、ボランティア募集のチラシ案作成や宇和島NPOセンターのパンフレット作成、南予地域の高校と宇和島NPOセンターの連携サポート等を行った。

新居浜グローバルネットワークの活動支援を行い、愛媛県ホームステイ事業実施においては、新居浜市で開催したこともあり、協働で取り組んだ。

日本・モザンビーク友好協会事務局運営を行い、オリンピック・パラリンピック選手団との交流活動においてサポートを行った。

四国NGOネットワークの事務局を担いつつも、2019年度内にえひめグローバルネットワークとの機能的統合を行った。また、ホームページ上の情報を移管し共有するしくみづくりの検討を行った。



## IV. 管理運営等

### 1. 組織運営

#### ① 事務局運営

本部・愛媛県松山市および香川県、徳島県、高知県の四国 EPO 事業実施のため、常勤および非常勤の人材を新規ならびに継続雇用し事務局の体制を整えた。

#### ② 役員体制

- 2019 年度は以下の役員体制とし、役員間のコミュニケーションについては、理事メールや WEB 会議を活用しながら意見交換を図り、理事会を年に 3 回開催した。

【理事】	竹内よし子 上田稔 常川真由美 堀田学 森源二郎 小松柊成	えひめグローバルネットワーク代表理事 聖カタリナ学園法人事務局長 四国 EPO 所長 社会保険労務士 四国糧油株式会社代表取締役社長 新居浜グローバルネットワーク
------	--	--

【監事】	鈴木靖彦	JA えひめ中央
【顧問】	薦田伸夫	弁護士

【理事会開催日】	第 1 回目	2019 年 6 月 9 日(日)
	第 2 回目	2019 年 9 月 23 日(月)
	第 3 回目	2020 年 1 月 30 日(木)

#### ③ 広報

- 会員メルマガ、HP、Facebook を活用し、イベント等の情報発信を行った。
- 各種メディアの取材に応じ、新聞・テレビ・ラジオ等において EGN の諸活動、他の市民活動の広報を積極的に行い、NPO/NGO 活動への理解や参加促進を図った。

# 活動計算書

[税込] (単位: 円)

NPO法人えひめグローバルネットワーク  
 14期 自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日  
 15期 自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

	14期修正決算	15期予算	15期決算	予算との差額
※1:14期修正決算以降、その他事業は実施していません。				
<b>【経常収益】</b>				
<b>【受取会費】</b>				
正会員受取会費	250,000	350,000	180,000	△ 170,000
協力会員受取会費	96,000	300,000	111,000	△ 189,000
<b>【受取寄付金】</b>				
受取寄付金	※2 1,674,909	1,000,000	1,423,512	423,512
講師派遣研修受入			805,714	805,714
モザンビーク災害支援			325,149	325,149
モザンビーク支援他			292,649	292,649
<b>【受取助成金等】</b>				
受取助成金	4,200,000	6,200,000	6,191,000	△ 9,000
地球環境基金		4,200,000	4,191,000	△ 9,000
宗像協会		2,000,000	2,000,000	0
<b>【事業収益】</b>				
事業収益	※3 1,563,266	1,096,000	3,338,666	2,242,666
雑貨収入		200,000	571,504	371,504
講師派遣		200,000	616,399	416,399
会議室・事務室利用料		546,000	321,000	△ 225,000
武器アート展示		150,000	100,000	△ 50,000
地球環境基金自主事業ESD研修			1,191,940	1,191,940
オリパラ交流事業			325,722	325,722
宗像協会			212,101	212,101
受託事業収益	※4 51,259,041	45,628,034	45,974,022	345,988
環境省 四国EPO		31,080,000	31,398,978	318,978
外務省 NGO相談員		2,902,392	3,068,538	166,146
JICA NGO提案型プログラム		2,330,000	1,563,975	△ 766,025
環境省 地域循環共生圏		3,899,880	3,624,524	△ 275,356
地球環境基金助成金説明会		150,000	150,000	0
日本NPOセンターグリーンギフトプロジェクト		150,000	300,000	150,000
JVOAD 災害支援事業		5,115,762	5,511,762	396,000
PWJ モザンビーク災害支援			138,024	138,024
愛媛県ホームステイ事業			218,221	218,221
その他事業	※5			
<b>【その他収益】</b>				
受取利息	※6 37	100	6,407	6,307
雑収益	※7 1,162,631		25,201	25,201
家賃収入	※8 720,000	720,000	80,000	△ 640,000
経常収益計	61,763,884	55,294,134	57,329,808	2,035,674
<b>【経常費用】</b>				
<b>【事業費】</b>				
(人件費)				
給料 手当(事業)	※9 18,116,172	17,200,000	25,503,263	8,303,263
パート給料(事業)	※10 6,842,427	6,900,000		△ 6,900,000
法定福利費(事業)	※11 2,157,961	1,770,000	2,539,251	769,251
福利厚生費(事業)	※12		30,642	30,642
人件費計	27,116,560	25,870,000	29,430,216	3,560,216
(その他経費)				
売上原価	※13 189,589	200,000	444,665	244,665
業務委託費(事業)	※14 600,000		1,760,000	1,760,000
諸謝金(事業)	※15 2,704,021	2,800,000	3,932,787	1,132,787
外注費(事業)	※16 828,168	1,600,000	684,600	△ 915,400
印刷製本費(事業)	※17 838,173	500,000	533,455	33,455
会議費(事業)	※18 95,118	100,000	62,293	△ 37,707
旅費交通費(事業)	※19 7,570,823	7,300,000	8,178,125	878,125
車両費(事業)	※20 251,098	250,000	717,305	467,305
通信運搬費(事業)	※21 1,415,960	1,400,000	1,774,935	374,935
消耗品費(事業)	※22 974,204	1,000,000	1,103,117	103,117



	14期修正決算	15期予算	15期決算	予算との差額
修繕費(事業)	※23	300,000	1,238,422	938,422
水道光熱費(事業)		58,601	60,000	75,355
地代家賃(事業)	※24	520,000	520,000	394,653
賃借料(事業)	※25	2,176,184	2,200,000	1,790,040
減価償却費(事業)	※26	260,780	230,000	147,571
保険料(事業)	※27	17,660	20,000	156,050
諸会費(事業)	※28	39,960	40,000	128,022
新聞図書費(事業)		163,568	170,000	236,929
租税公課(事業)	※29	2,030,400	2,100,000	2,049,350
研修費(事業)	※30			38,474
支払手数料(事業)	※31	64,720	70,000	88,417
支払利息(事業)	※32	366		236,320
為替差損		38,858	40,000	3,454
雑費(事業)		22,800	23,000	
修繕引当金	※33	600,000		
その他経費計		21,461,051	20,923,000	25,774,339
事業費計		48,577,611	46,793,000	53,847,495
<b>【管理費】</b>				
(人件費)				
給料手当	※34	3,076,612	1,870,000	932,165
パート給料	※35	379,529	782,000	
通勤費		1,680		
法定福利費	※36	724,598	450,000	424,895
福利厚生費	※37	7,038	50,000	
人件費計		4,189,457	3,152,000	1,357,060
(その他経費)				
諸謝金	※38	76,937	90,000	333,223
印刷製本費		157,605	160,000	95,930
会議費		34,528	35,000	278
旅費交通費	※39	238,710	230,000	511,709
車両費		11,033	12,000	
車両燃料費		98,493	100,000	
通信運搬費		404,178	410,000	267,395
消耗品費	※40	824,282	200,000	57,199
修繕費	※41			89,900
水道光熱費		147,908	150,000	171,577
地代家賃	※42			85,800
賃借料	※43	250,167	260,000	89,683
減価償却費	※44			157,683
保険料		59,820	60,000	50,590
広告宣伝費		6,480	7,000	
新聞図書費		5,020	6,000	
諸会費	※45	73,550	75,000	23,350
租税公課	※46	1,260,400	1,270,000	51,677
支払手数料	※47	84,263	90,000	8,686
管理諸費		76,223	77,000	
外注費	※48	280,151	590,000	
支払利息	※49	213,526	220,000	
その他経費計		4,303,274	4,042,000	1,994,680
管理費計		8,492,731	7,194,000	3,351,740
経常費用計		56,935,820	53,987,000	57,199,235
当期経常増減額		3,933,267	1,307,134	130,573
<b>【経常外収益】</b>				
経常外収益計				
<b>【経常外費用】</b>				
経常外費用計				
税引前当期正味財産増減額		3,933,267	1,370,134	130,573
法人税、住民税及び事業税	※50	394,900		1,439,900
当期正味財産増減額		3,538,367	1,307,134	△1,309,327
前期繰越正味財産額		10,462,237	10,462,237	14,396,836
次期繰越正味財産額		14,000,604	11,769,371	13,087,509

## 活 動 計 算 書 注 記

- ※：14期決算は会計担当者の年度末退職と税理士の変更があり、修正決算を行った。
- ※1：14期当初決算ではその他の事業で計上していた項目をその他事業にあたらないことから、修正決算からは特定非営利事業へ統合し、その他事業は実施しない旨を追記した。
- ※2：14期当初決算内訳に謝金と日当が入っていたため、修正決算では仕訳変更した。
- ※3：地球環境基金助成金における事業自己負担分事業収入と愛媛県オリンピックパラリンピックにおけるモザンビーク選手受入に係る事業が新たに追加となったため、当初予算より増加した。
- ※4：受託事業のうち、環境省四国EPO事業と地域循環共生圏事業については、変更契約と新型コロナウイルス感染症による影響、金額変更が生じた。その他についても実績精算等のプロセスで当初予算と差が発生した。
- ※5：14期当初決算ではその他の事業で計上していたが、修正決算では協働オフィス使用料を事業趣旨を再検討し、家賃収入と雑収益で処理した。15期には予算立てを家賃収入で立てたが、同額を森ビルと管理者へ支払っており収益事業に該当しないという判断となり、前受金とその支払で処理することとした。
- ※6：年度末時点で受取利息が3円あり14期修正決算ではその金額を計上した。15期に短期借入金を繰上返済したため受取利息が増加した。
- ※7：JPF等の使用による会議室、事務所スペース利用料を家賃収入から雑収益へ移動したため金額が増加した。
- ※8：協働オフィスを使用するえひめ311からの家賃のみを修正決算では本項目で仕訳した。15期からは前受金処理となり同金額は別項目へ付け替えを行った。15期計上した費用は、会議室を借り上げ使用した団体から得た収入のみを計上した。
- ※9：その他事業に仕訳されていた人件費は特定非営利活動に係る人件費のため修正決算では統合した。また、管理費に内訳されていた事業のうち事業費に該当する分も統合したため、金額が増加した。また、働き方改革の流れでスタッフの勤務形態が多様化しているため、パート給料をわけず、給与手当に一本化した。
- ※10：パート給料の内、管理費でなく事業費に該当する費用を修正決算で管理費から事業費へ付替した。
- ※11：14期3月末計上費用の貸方借方付替間違いがあり、修正決算で修正した。事業に従事するスタッフの法定福利費を管理費から事業費へ付替した。
- ※12：事業に従事するスタッフの健康診断費用のため、これまでは福利厚生費に仕訳していたものを、15期では福利厚生費(事業)に分類した。
- ※13：オリンピックパラリンピック開催に向け、IKEUCHI ORGANIC(株)との協働によりモザンビーク応援フェイスタオルとハンカチを企画制作し、仕入れを行ったため売上原価が増加した。
- ※14：15期業務委託費は、地域循環共生圏事業実施のための四国各県協働団体との連携事業とESD-Jとの協働事業(16期までの2ヵ年事業)。当初予算では外注費で予算立を行ったが、覚書締結事業のため業務委託費として別立てした。
- ※15：謝金仕訳間違いと交通費が謝金に含まれていたため、修正決算で適正な仕訳に修正した。
- ※16：当初予算立していた外注費を業務委託費と外注費に振り分けをした。
- ※17：未払計上となっていた印刷費を修正決算で追加反映した。
- ※18：その他事業に仕訳されていた費用を修正決算で特定非営利活動事業費用に統合した。
- ※19：他の項目へ仕訳されていた交通費を修正決算で旅費交通費へ統合した。
- ※20：モザンビークで学校、公民館修繕のために使用する車両の修理や維持管理で発生した費用
- ※21：業務使用携帯代の内、未計上分を修正決算で計上した。
- ※22：元帳へ記帳されていない消耗品費3件を修正決算で追加計上した。
- ※23：宗像協会の支援が決定し公民館と学校修繕を実施した。
- ※24：14期に地代家賃で計上していた協働オフィス家賃は、15期より前受金とその支払処理の仕訳に変更した。また、14期までは賃借料で計上していたサテライトデスク使用料を15期から地代家賃仕訳に変更する。
- ※25：15期より、これまで賃借料で計上していたサテライトデスク使用料を地代家賃に仕訳することとした。
- ※26：モザンビーク公民館の減価償却費用(耐用年数41年、定額法)147,571円含む。他、14期分EGN事務所建物附属設備、パソコン、カメラを計上(15期は管理業務で計上)。
- ※27：イベント開催、モザン渡航、モザンビーク研修生招聘、火災保険等
- ※28：年会費等。15期は地域循環共生圏事業推進のため、愛媛県中業企業家同友会へ入会した。



- ※29: 消費税算定方法再検討により還付が発生。修正決算時に金額修正を行った。
- ※30: モザンビーク人スタッフの資材搬送に必要な運転免許取得のための費用
- ※31: その他事業に仕訳されていた支払手数料を特定非営利活動事業へ統合
- ※32: 14期までは管理費で計上していた当該費用を事業費へ振り分けした。
- ※33: 14期で事務所や公民館修繕に必要な費用を立てるために修繕引当金を計上
- ※34: 14期当初管理費で計上していた人件費のうち、事業費に相当する分を修正決算で事業費へ付け替えした。
  
- ※35: 14期当初管理費で計上していた人件費のうち、事業費に相当する分を修正決算で事業費へ付け替えした。あわせて、パート計上していた給与を15期は給与手当へ統合した。
- ※36: ※34、35の付け替えに従い、法定福利費についても事業費に相当する分を修正決算で事業費へ付け替えした。
  
- ※37: スタッフの健康診断等にかかる費用。15期は事業費内で計上した。
- ※38: 14期当初時点の仕訳間違いを修正決算に反映した。社会保険労務士や税理士へ支払う費用等を14期までは外注費へ入れていたが、15期は諸謝金へ統合した。
- ※39: 旅費交通費の仕訳間違いを修正決算に反映した。
- ※40: 消耗品費の仕訳間違いを修正決算に反映した。
- ※41: 事務所維持管理で支出した費用を計上
- ※42: 災害支援事業で増員したスタッフ滞在用に第3森ビルで急遽確保した際に要した費用
- ※43: 事務所コピー機リース料
- ※44: ※26参照
- ※45: 事業に該当する諸会費は事業費内で計上。管理費での支出は町内会費等
- ※46: 14期まで計上していた費用のうち、15期は事業費に係るものは事業費内で計上し、管理に係る印紙代等のみ同項目へ仕訳した。
- ※47: 仕訳間違いを修正決算に反映。事業実施に伴い発生する支払手数料を15期は事業費内で計上
- ※48: ※38参照
- ※49: 事業実施に伴い発生する支払手数料を15期は事業費内で計上
- ※50: 税理士変更に伴い、収益事業に関する考え方を整理、課税対象事業の見直しを行い、15期で14期修正決算に伴う法人税等を追加支払いした。

# 財 産 目 録

NPO法人えひめグローバルネットワーク

[税込] (単位: 円)

14期: 2019年3月31日現在

15期: 2020年3月31日現在

全事業所

## 《資産の部》

### 【流動資産】

(現金・預金)

現 金

545,604

368,929

普通 預金

4,651,505

5,502,000

当座 預金

119,529

129,325

現金・預金 計

5,316,638

6,000,254

(売上債権)

未 収 金

14,960,771

10,220,819

売上債権 計

14,960,771

10,220,819

(棚卸資産)

棚卸 資産

192,230

575,298

棚卸資産 計

192,230

575,298

(その他流動資産)

前 渡 金

810,000

前払 費用

23,720

39,560

立 替 金

8,320

仮 払 金

916,001

50,000

その他流動資産 計

948,041

899,560

流動資産合計

21,417,680

17,695,931

### 【固定資産】

(有形固定資産)

土 地

8,400,000

8,400,000

建 物

5,706,087

5,558,516

建物附属設備

469,360

406,936

什器 備品

17,725

110,974

有形固定資産 計

14,593,172

14,476,426

固定資産合計

14,593,172

14,476,426

資産の部 合計

36,010,852

32,172,357

## 《負債の部》

### 【流動負債】

未 払 金

2,691,700

2,598,697

前 受 金

4,464,522

360,000

短期借入金

6,226,920

6,491,676

預 り 金

528,165

771,975

未払法人税等

243,100

未払消費税等

1,209,500

974,400

流動負債 計

15,120,807

11,439,848

### 【固定負債】

修繕引当金

600,000

520,000

長期借入金

5,140,000

7,125,000

固定負債 計

5,740,000

7,645,000

負債の部 合計

20,860,807

19,084,848

正味財産

15,150,045

13,087,509

# 貸 借 対 照 表

NPO法人えひめグローバルネットワーク

[税込] (単位: 円)

14期: 2019年3月31日現在

15期: 2020年3月31日現在

全事業所

資 産 の 部		
科 目	金 額 (14期修正決算)	金 額 (15期決算)
<b>【流動資産】</b>		
(現金・預金)		
現 金	545,604	368,929
普通 預金	4,651,505	5,502,000
当座 預金	119,529	129,325
現金・預金 計	5,316,638	6,000,254
(売上債権)		
未 収 金	14,960,771	10,220,819
売上債権 計	14,960,771	10,220,819
(棚卸資産)		
棚卸 資産	192,230	575,298
棚卸資産 計	192,230	575,298
(その他流動資産)		
前 渡 金		810,000
前払 費用	23,720	39,560
立 替 金	8,320	
仮 払 金	916,001	50,000
その他流動資産 計	948,041	899,560
流動資産合計	21,417,680	17,695,931
<b>【固定資産】</b>		
(有形固定資産)		
土 地	8,400,000	8,400,000
建 物	5,706,087	5,558,516
建物附属設備	469,360	406,936
什器 備品	17,725	110,974
有形固定資産 計	14,593,172	14,476,426
固定資産合計	14,593,172	14,476,426
<b>資産合計</b>	<b>36,010,852</b>	<b>32,172,357</b>
負 債 ・ 正 味 財 産 の 部		
科 目	金 額 (14期修正決算)	金 額 (15期決算)
<b>【流動負債】</b>		
未 払 金	2,691,700	2,598,697
前 受 金	4,464,522	360,000
短期借入金	6,226,920	6,491,676
預 り 金	528,165	771,975
未払法人税等		243,100
未払消費税等	1,209,500	974,400
流動負債 計	15,120,807	11,439,848
<b>【固定負債】</b>		
修繕引当金	600,000	520,000
長期借入金	5,140,000	7,125,000
固定負債 計	5,740,000	7,645,000
<b>負債合計</b>	<b>20,860,807</b>	<b>19,084,848</b>
正 味 財 産 の 部		
<b>【正味財産】</b>		
前期繰越正味財産額	10,462,237	14,396,836
当期正味財産増減額	4,687,808	△ 1,309,327
正味財産 計	15,150,045	13,087,509
<b>正味財産合計</b>	<b>15,150,045</b>	<b>13,087,509</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>36,010,852</b>	<b>32,172,357</b>

※14期修正決算以降、その他事業は実施していません。



# 特定非営利活動に係る事業会計損益計算書

NPO法人えひめグローバルネットワーク

[税込] (単位: 円)

14期: 2019年3月31日現在

15期: 2020年3月31日現在

全事業所

	14期修正決算	15期決算
<b>【経常収益】</b>		
<b>【受取会費】</b>		
正会員受取会費	250,000	180,000
協力会員受取会費	96,000	111,000
<b>【受取寄付金】</b>		
受取寄付金	1,674,909	1,423,512
<b>【受取助成金等】</b>		
受取助成金	4,200,000	6,191,000
<b>【事業収益】</b>		
事業収益	1,563,266	3,338,666
受託事業収益	51,259,041	45,974,022
その他事業		
<b>【その他収益】</b>		
受取利息	37	6,407
雑収益	1,162,631	25,201
家賃収入	720,000	80,000
経常収益計	60,925,884	57,329,808
<b>【経常費用】</b>		
<b>【事業費】</b>		
(人件費)		
給料手当(事業)	18,116,172	25,503,263
パート給料(事業)	6,842,427	2,539,251
法定福利費(事業)	2,157,961	30,642
人件費計	27,116,560	28,073,156
(その他経費)		
修繕引当金繰入	600,000	
<b>【売上原価】</b>		
売上原価	189,589	444,665
業務委託費(事業)	600,000	1,760,000
諸謝金(事業)	2,704,021	3,932,787
外注費(事業)	828,168	684,600
印刷製本費(事業)	838,173	533,455
会議費(事業)	95,118	62,293
旅費交通費(事業)	7,570,823	8,178,125
車両費(事業)	251,098	717,305
通信運搬費(事業)	1,415,960	1,774,935
消耗品費(事業)	974,204	1,103,117
修繕費(事業)		1,238,422
水道光熱費(事業)	58,601	75,355
地代家賃(事業)	520,000	394,653
賃借料(事業)	2,176,184	1,790,040
減価償却費(事業)	260,780	147,571
保険料(事業)	17,660	156,050
諸会費(事業)	39,960	128,022
新聞図書費(事業)	163,568	236,929
租税公課(事業)	2,030,400	2,049,350
支払手数料(事業)	64,720	38,474
支払利息(事業)	366	88,417
為替差損	38,858	236,320
雑費(事業)	22,800	3,454
その他経費計	21,461,051	25,774,339
事業費計	48,577,611	53,847,495

<b>【管理費】</b>		
(人件費)		
給料 手当	3,062,898	932,165
パート給料	379,529	
通勤費	1,680	
法定福利費	724,598	424,895
福利厚生費	7,038	
人件費計	<u>4,175,743</u>	<u>1,357,060</u>
(その他経費)		
印刷製本費	157,605	95,930
会議費	34,528	278
旅費交通費	238,710	511,709
車両費	11,033	
車両燃料費	98,493	
通信運搬費	399,049	267,395
消耗品費	819,156	57,199
修繕費		89,900
水道光熱費	147,908	171,577
地代家賃		85,800
賃借料	250,167	89,683
広告宣伝費	6,480	
新聞図書費	5,020	
減価償却費		157,683
保険料	59,820	50,590
諸会費	73,550	23,350
租税公課	47,203	51,677
支払手数料	84,263	8,686
管理諸費	76,223	
諸謝金	76,937	333,223
外注費	290,151	
支払利息	213,526	
その他経費計	<u>3,089,822</u>	<u>1,994,680</u>
管理費計	<u>7,265,565</u>	<u>3,351,740</u>
経常費用計	<u>55,843,176</u>	<u>57,199,235</u>
当期経常増減額	5,082,708	130,573
<b>【経常外収益】</b>		
経常外収益計	0	0
<b>【経常外費用】</b>		
経常外費用計	0	0
税引前当期正味財産増減額	5,082,708	130,573
法人税、住民税及び事業税	394,900	1,439,900
当期正味財産増減額	<u>4,687,808</u>	<u>△ 1,309,327</u>
前期繰越正味財産額	<u>10,462,237</u>	<u>14,396,836</u>
次期繰越正味財産額	<u>15,150,045</u>	<u>13,087,509</u>

※その他の事業は行っていない。

計算書類の注記(15期決算)

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。

(1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は最終仕入原価法によっています。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法を採用しています。

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については、定額法を採用しています。

無形固定資産 定額法を採用しています。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込み経理方法によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位:円)

科目	国際協力事業	販売事業	環境事業	教育・ネットワーク事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I. 経常収益</b>							
1. 受取会費						180,000	180,000
正会員会費						111,000	111,000
協力会員会費						69,000	69,000
2. 受取寄付金	518,568			805,714	1,324,282	99,230	1,423,512
3. 受取助成金	6,191,000				6,191,000		6,191,000
4. 事業収益	1,829,763	566,104		942,799	3,338,666		3,338,666
事業収益	1,829,763	566,104		942,799	3,338,666		3,338,666
受託事業収益	138,024		34,520,555	11,315,443	45,974,022		45,974,022
5. その他収益						6,407	6,407
受取利息						200	25,201
雑収益			1	25,000	25,001	80,000	80,000
修繕引当金取崩益							
経常収益計	8,677,355	566,104	34,520,556	13,088,956	56,852,971	476,837	57,329,808
<b>II. 経常費用</b>							
(1) 人件費							
給与	2,585,157		18,527,833	4,390,273	25,503,263	932,165	26,435,428
法定福利費			2,163,949	375,302	2,539,251	424,895	2,964,146
福利厚生費			30,642		30,642		30,642
人件費計	2,585,157	0	20,722,424	4,765,575	28,073,156	1,357,060	29,430,216
(2) その他経費		416,322			444,665		444,665
売上原価	28,343	416,322			1,760,000		1,760,000
業務委託費	240,000		1,250,000	270,000	3,932,787	333,223	4,266,010
諸謝金	884,595		949,142	2,099,050	684,600		684,600
外注費			457,800	226,800	533,455	95,930	629,385
印刷製本費	49,391		283,338	200,726	62,293	278	62,571
会議費	20,041		15,623	26,629	511,709		8,689,834
旅費交通費	4,118,930		2,588,595	1,470,600	717,305		717,305
車両費	663,305			54,000	1,774,935	267,395	2,042,330
通信運搬費	222,980	2,580	1,437,541	111,834	1,103,117	57,199	1,160,316
消耗品費	538,792		445,457	118,868	1,238,422	89,900	1,328,322
修繕費	1,234,422		4,000		75,355	171,577	246,932
水道光熱費			4,849	70,506	394,653	85,800	480,453
地代家賃			394,653		1,790,040	89,683	1,879,723
賃借料	5,720		1,644,146	140,174	147,571	157,683	305,254
減価償却費	147,571				156,050	50,590	206,640
保険料	142,100			13,950	128,022	23,350	151,372
諸会費	8,522		65,000	54,500	236,929		236,929
新聞図書費	21,599		210,160	5,170	2,049,350	51,677	2,101,027
租税公課	25,001	29,788	1,492,346	502,215	38,474		38,474
研修費	38,474				88,417	8,686	97,103
支払手数料	54,232	968	21,045	12,172	236,320		236,320
支払利息			236,320		3,454		3,454
為替差損	3,454						
その他経費計	8,447,472	449,658	11,500,015	5,377,194	25,774,339	1,994,680	27,769,019
経常費用計	11,032,629	449,658	32,222,439	10,142,769	53,847,495	3,351,740	57,199,235
当期経常増減額	△ 2,355,274	116,446	2,298,117	2,946,187	3,005,476	△ 2,874,903	130,573

3. 固定資産の増減内訳

(単位:円)

科目	期首取得価額	増加	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
土地	8,400,000			8,400,000		8,400,000
建物	6,565,842			6,565,842	1,007,326	5,558,516
建物附属設備	869,203			869,203	462,267	406,936
工具器具備品	619,100	188,508		807,608	696,634	110,974
合計	16,454,145	188,508		16,642,653	2,166,227	14,476,426

4. 借入金を増減内訳

(単位:円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
<b>短期借入金</b>				
愛媛銀行 道後支店	6,000,000			6,000,000
理事	227,286	264,390		491,676
<b>長期借入金</b>				
愛媛銀行 道後支店	5,140,000		715,000	4,425,000
愛媛信用金庫 本店営業部		3,000,000	300,000	2,700,000
合計	11,367,286	3,264,390	1,015,000	13,616,676



## 監査報告書

特定非営利活動法人  
えひめグローバルネットワーク

代表理事 竹内 よし子 様

2020年6月8日

特定非営利活動法人  
えひめグローバルネットワーク

監事 鈴木 靖彦 

特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク定款第7章第49条に基づき、2019年度事業報告書、活動計算書、貸借対照表および財産目録など決算に関する書類を監査し、記帳簿の計算が正確であって記載に誤りがなく、適正に処理していることを証明します。

以上

※関連ホームページ紹介※

■えひめグローバルネットワークホームページ



■武器アートホームページ



武器をアートに | モザンビークにおける平和構築活動  
TRANSFORMING ARMS INTO ART



武器アートとは 所蔵作品一覧 アーティストの紹介 作品の貸し出し 武器アートグッズ モザンビークの今

## ■ ショピファイホームページ



## ■ 四国EPO・四国ESDセンターホームページ



# SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



国連広報センター : <http://www.unic.or.jp/>